

モンゴル人の日記のなかの中国文化大革命(1)

楊 海 英

チェは生き続けている。彼の英雄的な闘いは、残酷な資本主義を終わらせるまで続くだろう。
—チェ・ゲバラ没後 40 周年追悼行事におけるボリビア大統領
モラレスの言葉（『朝日新聞』夕刊 2007 年 10 月 9 日）

2004 年秋、私は内モンゴル自治区の首府フフホト市内で、あるモンゴル人の日記数冊を手にいれた。そのうち、1967 年分の日記の大きさは 13.0cm×17.8cm で、茶色のハードカバーのついたものである。表紙に「向雷鋒同志学習¹」という毛澤東の題辞が印刷されてある。1966 年 8 月に北京市印刷公司（椿樹製本工場）監製のものである。

日記のどこにもその書き手の名前は記されていない。私はずっと日記を書いた人物を特定しようと努力したが、未だに成功していない。内容を検討した結果、書き手は作家であることだけが判明した。

日記には文化大革命が発動されてから二年目、すなわち 1967 年の 3 月 1 日から 12 月 31 日までの行動と思想が記されている。史上において前例のない政治運動のなかで、モンゴル人のひとりがどのように暮らしていたかを知るうえで、きわめて重要な資料である。以下では、日記の性質について簡単に説明してから、約一年間分の日記を資料として公開する。

1. 社会主義中国における日記の位置づけ

共産党一党独裁による社会主義中国において、個人の日記は決してプライベートなものではない。いいかえれば、日記にプライバシーをつづることはほとんどない。本当に考えていることをすなおに吐露し、実際にやったことを正直に書くことはまずない。いざ、政治情勢が変わり、昨日までに正しかった思想や、行為が一夜にして「反動思想」もしくは「反革命的な行為」とされてしまうこ

¹ 雷鋒という人物がいかに社会主義時代の模範的な人物、「60年代型政治的人物」につくりあげられたかについては、師永剛らによる研究（2006）がある。

とが日常茶飯事のように起こっていたからである。そのため、たいていの人
は日記のなかに真の思想を書けないのである。1972年に小学校にはいり、文化大
革命が終わったとされる1976年あたりから日記をときどき書くようになった私
でさえ、以上のような暗黙のルールをずっともってきたのである。

では、社会主義中国を生きる人々にとって、日記とは何だろうか。

日記は「向党交心」、つまり「中国共産党に心を取りだして交す」ための道具
である。「偉大なる中国共産党を熱愛し、偉大なる指導者毛澤東を敬愛している
心の奥底」をいつでもみせられるように用意しておく装置である。今日の言葉
で表現すれば、つねに検閲にそなえておくためのものである。いや、最初から
共産党の幹部たちに検閲してもらうために日記を書く。共産党の書記や共産主
義青年団の書記などによんでもらい、思想的にいかに進歩的であるかを評価し
てもらおう目的で日記をつづるのが一般的である。その意味では、日記のなかの
「思想と行動」も当然、つくられたものである。誰も本当に考えていることは
書かないし、実際にとった日常的な行動も「革命的」に偽装しがちである、と
いっていい。私がここでとりあげるモンゴル人作家の日記も例外ではない。

しかし、それでも、日記には真実がある。それは「つくられた真実」である。
検閲に耐えられる真実である。当時を生きた人々の心底からの叫びではなくて
も（心底からの叫びもあろう！）、少なくとも革命隊伍のなかにいたひとりの人
間がまわりにまじって口にしていたスローガンであるのはまちがいない。モン
ゴル人作家はほとんど毎日のように毛澤東への忠誠心をくりかえし表している。
たとえば、11月18日の日記はわずか一句からなっている。

「毛澤東に対する私の態度は熱く！熱く！熱く！劉少奇に対しては冷たく！
冷たく！冷たく！」

これは、決して著者が妄信的な毛澤東ファンだったことを意味しない。ほかに
書くことがみつからなくなると、このような語句で飾るしか選択肢がなかつ
たのである。実際、私もふくめた、当時の人々がよく用いた自己防衛策だった。

毛澤東へ忠誠をつくし、共産党に対する熱愛を具体的に表現する方法のひと
つに、「毛主席語録」をどれほど覚えられるか、がある。日記の作者も毎日のよ
うに「毛主席語録」を暗記していたと自白している。日記のなかにもひんぱん
に「毛主席語録」をひく。当時、人々が挨拶の代わりに毛澤東語録を口にして
いたのである。たとえば、

「政権は銃口より生まれる」、と誰かにいわれたら、別の人はすぐさま「人民
に奉仕せよ」と答えたりしていた。

「毛主席語録」は毛澤東の文章のなかからの抜粋からなっており、決して毛澤東思想を体系的に網羅したものではない。文化大革命当時、人々はさまざまな造反派に分かれていた。派閥どうしで弁論する際に、自分に都合がいいように「毛主席語録」をもちだして武器としていた。日記の書き手もちろん、例外ではなかった。

日記の作者はまたよく毛澤東の詩詞を引用している（たとえば11月24日）。毛澤東の詩詞は決してうまくないし、美しくもなかった。しかし、毛澤東のほかには漢詩を書く勇気を誰ももてなかった。漢詩は封建社会の残滓だとされていたからだ。漢字そのものに美を感じとり、漢文漢詩は知的な人々の優雅な精神世界を披露するものである、と伝統的な中国人はそう考える。しかし、1965年秋に書いた「念奴嬌 鳥兒問答」という詩のなかに、毛澤東は「放屁」という言葉をおりこんだのは周知の事実だ。これで中国の伝統的な美に屁の臭いを混ぜこんだ毛澤東はたしかに革命家といえよう。もっとも、かれは延安時代から演説のなかでしょっちゅう下品な言葉、性行為を指す語句を愛用し、いかにも「ヤクザ流プロレタリアート」（流氓無産階級者）らしくふるまっていたことも、最近では広く知られるようになった（亜衣 2005：216）。

醜悪も百回美しいといえ、信じる者もでてくる。モンゴル人作家も例外ではなかった。かれも6億の中国人たちとともに毛澤東の放った屁を美味しい、といわざるを得なかった。毛澤東とその作品をうたがうことは、まったく不可能だったからであろう。

要するに、「中国共産党にとりだして^{わた}交す心」は、毛澤東の語録と詩詞でかざっていなければならなかった。劫である。

2. ぶれる心は伝える

毛澤東以外の人を愛することは、単なる浮気以上に、とても危険な政治ゲームだった。日記の作者は1967年8月4日と10月6日に、「毛澤東のもっとも親密な戦友で、後継者である林彪」に対しても敬愛し、崇拝している、と告白している。そして、学生たちがガリ版印刷した「林彪同志語録」を学んだとも述べている。林彪同志は毛澤東がもっとも信頼する人で、中国共産党の「天兵天将」のような解放軍を率いてきた思想家、政治家である。林彪はレーニンの後継者たるスターリンよりも偉大だ、と作家は賛辞をおしまない。劉少奇のような「悪魔」を毛澤東がうちやぶったのも林彪の力があつたからだ、とも指摘している。劉少奇を打倒するために林彪と彼が掌握する解放軍の威を毛澤東が借りた、というのが今のおおかたの見解であるが、作家は早くからそのように認

識していたようである。

しかし、私の手元にある日記では、この8月4日と10月6日の文章はすべて塗りつぶされている。

1971年9月13日、「親密な戦友」で、共産党の綱領である『中国共産党章程』のなかで毛澤東の後継者に定められていた林彪はなんと、モンゴル人民共和国南部の草原に飛行機ごと墜落して帰らぬ人となったとされている。毛澤東暗殺をくわだてて失敗し、あわてて逃亡したが、異国の地に謎の死をとげた、というのが中国の公式見解だ。いわゆる「九・一三事件」だ。もともと、一般の人々に林彪の死が知らされたのは、事件後、数ヶ月間がたってからのことである。

林彪も実は毛澤東に追いつめられていた。中国の人々は偉大な領袖の親密な戦友の不可解な死をとおして、文化大革命をうたがうようになった²。おそらく日記の作者も同じだろう。彼もたぶん、自らの「党に交すための赤い心」に林彪賞賛の斑点がついてしまったのをあわてて消そうとしただろう。悩みながら、文化大革命についての思考を深めていったにちがいない。

多情なモンゴル人作家の領袖愛が少し林彪にうつったこともあったが、毛澤東の讐敵である劉少奇に対しては終始、憎悪と批判の罵声をあびせている。劉少奇を名前ではなく、「劉白頭」というあだ名をつけてよんでいる。白髪のめだつ容貌が印象的だったかもしれない。劉少奇と鄧小平のブルジョアジー路線を批判するなかで、当時、資本主義的な「毒草」とされていた映画³「清宮秘史」と「不夜城」をも貶している。

1967年の社会主義中国の人民のひとりとして、毛澤東と林彪、そして劉少奇の三人に対する上で示したような感情の発露は、決してユニークなものではない。私は今、文化大革命と少数民族との関連について調べている。作家の日記からもモンゴル人がどのように文化大革命にかかわったか、という内容をよみとることができる。私のこのような期待を作家は裏切らなかつた。

3. 内モンゴルの文化大革命の投影

共産党にいつでも真赤な心を見せられる。いわば、いつ検閲されてもいいよ

² 林彪については、いまの中国政府もまだ彼を「反革命者」、「反党分子」とする公式見解を変えていない。中国国内における研究もこうした政府の枠から離脱していない。中国以外では、林彪事件を見直そうとする複数の斬新な研究が現れている。たとえば、丁（2004）と呉（2006）、それに林彪の一味とされる呉法憲の回想録（2006）も新しい見方を示している。

³ 社会主義中国において、どのような映画が「毒草」とされ、いかに批判されたかについては、祁曉萍による『香花 毒草—紅色年代的電影命運』（2006）がある。

うな日記であるが、それでも、中国の文化大革命が内モンゴル自治区でどのように行われていたかについての第一級の資料である。

3月4日の文章のなかで、作家は自分を「青年革命造反派」と位置づけている。文学者をめざす20代前半のモンゴル人青年は、1967年3月1日にはすでに内モンゴル自治区のもっとも西、モンゴル人民共和国と接するアラシャン左旗に下放されていた。なぜ、いつからこのような僻地に流されてきたかについては、まったく触れていない。「赤い心」にあってはならない真相を日記は伝えていない。アラシャン左旗も当時はバヤンノール盟に属していたが、やがて中国とソ連・モンゴル人民共和国の「修正主義」たちとの対立が激しくなり、戦争はもはや不可避と判断されたとき、軍事的な視点により、1969年から寧夏回族自治区に割譲された。モンゴル人たちをムスリムの回族に渡して統治させる、という手法である。宗教は異なるものの、同じ漢語を話し、そもそも歴史的なホームランドをもたない回族のほうが、モンゴル人よりも信頼されていたようである⁴。

日記のなかの「私」、つまり「革命青年にして文学労働者」であるモンゴル人は、親族とのつきあいをも一切絶とうとしていた。一度だけ、1967年7月に包頭市にすむ姉と、ウランチャブ盟四子王旗にいる姉をたずねている。個人の親族同士のつきあいよりも、革命同志への愛が強調されていた時代だ。家族への感情はブルジョアジー的な趣味と否定されていた。男女の愛も革命同志式の、毛澤東とその前妻のひとり、楊開慧との恋愛のようなものでなければならなかった。モンゴル人青年の革命式の恋愛はなぜか成功せずに、失恋におちいったことを6月29日の日記は伝えている。

若い作家はアラシャン左旗の政府所在地バヤンホトを中心に、オルドスのオトク旗とハンギン旗、バヤンノール盟の三盛公という町、包頭市、フフホト市、ウランチャブ盟四子王旗、そして寧夏回族自治区の首府銀川市まで足をはこんでいる。当時、ふだんの居住地を離れてよそへ行くときには、人民公社政府と旗（県）革命委員会からの紹介状がなければならなかった。厳しい移動禁止政策がしかれていた時代のなかで、かなり広く歩き回っていたほうになる。作家は、革命委員会の指示で動いていたと書いている。

文化大革命が発動された翌年、1967年1月6日に上海の造反派たちは市政府を打倒して「奪権」した。毛澤東の勅命をうけた「革命行動」である（呉法憲 2006：630－633；975－976）。このような上海の「一月革命」にならって、

⁴ モンゴルと回族などムスリムとの関係については、私は『モンゴルとイスラーム的中国』という著書のなかで詳しく論じている（楊 2007）。

全国各地で「奪権」がスタートした。それまでにブルジョアジーの反革命路線を歩む実権派の権利を奪う革命とされた。北京から遠く離れたアラシャン左旗でも、1967年3月14日に「奪権」がおこなわれた。作家もこれに造反者として加わっている。人民解放軍が彼らの行動を支持した、とも伝えている。

3月20日、アラシャン左旗の副書記トゥブとチョローらは「修正主義の民族分裂者」、「フルシチョフのように人民にわざわざいをもたらず害虫」として吊るしあげられた。かれらの「親分」ウラーンフはすでに1966年5月、文化大革命が正式にはじまる前に打倒されていた。内モンゴルを偉大なる祖国中国から分裂させようとしたウラーンフは「モンゴル民族に対し滔天の罪をおかした」、と7月16日の日記にモンゴル人作家の「心」が公開されている。

4. 動揺と苦悩、そして国際革命への視線

毛澤東の号令で、さまざまな造反派組織が雨後の筍のように現れた1966年、1967年であるが、やがてその一部は「真の造反派」、別の一部は「保守派」とされた。造反派か保守派かは、毛澤東が倒そうとしていた人物と関連があるかどうか基準だった⁵。造反派同士でも自らを革命派とし、他のグループを反革命的として攻撃した。日記の作者も、めまぐるしくかわる政治的な嵐のなかで悩みつづけ、動揺をかくせなかった。

4月17日の文章から、作家はアラシャン左旗の「紅色造反兵団」の一員で、同じ旗内の「東方紅」や「紅衛兵団」と対立していたことがよみとれる。個人も各派も離合集散をくりかえしていた、と5月7日から17日までの日記は伝えている。そして、「紅色造反兵団」は6月9日に崩壊した、と作家は嘆いている。

秋の9月21日になると、アラシャン左旗の「東方紅革命造反総部」が復活を宣言した。「わたしはもともと東方紅の戦士だったが、反動路線による白色テロでしめだされた。そして、一時は頑なな保守の立場にたった。しかし、今からわたしは誇り高き東方紅革命造反総部の戦士として闘っていく」、と作家は豪語している。

このような動揺や反復は、内モンゴル最大の造反派、「呼三司」こと「呼^フ和^フ浩^ホ特^ト第三司令部」の動向と密接につながっていた⁶。4月17日づけの文はそれを語っ

⁵ 造反のためにたちあがった紅衛兵たちがいかに使い捨てにされたかについて、最近、中宣部部長陸定一の息子陸徳、全国政協秘書長だった梅龔彬の息子梅建明、それに張長蘆らによる回想がある（暁涵 米雅 1998）。

⁶ 内モンゴル最大の造反派組織、呼三司がどのような運命をたどったかについては、その実力者だった高樹華、程鉄軍による回想（2007）がある。

ている。作家が属する造反派もフフホトなどへ代表者を派遣して情勢をさぐっていた。当時、全国的に広がっていた造反組織の活動の実態を知るうえで、とても有用な資料である。

作家がどういう目的でアラシャン左旗からオルドスのオトク旗やハンギン旗、バヤンノール盟の三盛公あたりを行ったり来たりしていたのかは分からない。彼は日記のなかで何も触れていない。やはり、自分の心を完全に党に交^{わた}していない嫌いがのこる。おそらく、当時、大串聯とよばれていた「革命の火種」を播く活動で各地を歩き回っていただろう。大串聯は「革命的な経験を交流する」ための運動とされ、ただで鉄道やバスにのり、食事も無料で提供されていた。そうしたなか、9月4日に、三盛公でおこった大規模な武闘に作家はでくわしている。人々は鉄棒を手に、馬にまたがって道路を封鎖した。造反派が保守派をとりしめる行動だという。9月6日には、今度はオルドスのハンギン旗でも武闘が勃発し、殺されるのではないかと作家は恐怖心をつづっている。

武闘はブルジョアジーの道を歩む劉少奇を支持する一握りの悪者たちのしわざだ、と作家は信じている。実際は、中国各地でおこった有名な武闘は毛澤東やその直接的な指示で動いていた江青ら中央文革小組のメンバーたちの息がかかった造反派たちがひきおこしたものである⁷。毛澤東は武闘で死傷者が出た、との報告を受けた際に、「よくやった」と喜んでいたとの証言がある(呉法憲 2006:640)。

毛主席も武闘ではなく文闘をよびかけている、と作家は書いている。しかし、毛澤東が1966年8月18日に紅衛兵たちに接見した際に、彬彬にして君子たらんと期待されていた宋任窮の娘で、当時北京師範大学女子付属中学の宋彬彬^{ヨーウーマ}に対し、「要武嘛」とそそのかしている。宋彬彬がすぐさま名前を宋要武に改めているのはあまりにも有名な話だ。毛澤東の一語一句が金科玉条以上だった中国において、「要武嘛^{ヨーウーマ}」との煽動が何を意味しているか、造反派たちも当然ころえていたにちがいない。宋要武はその後、7人もの「牛鬼蛇神」をなぐり殺したという説がある(任 1996)。直接毛澤東^{ヨーウーマ}にあつて、「要武嘛」ときけなかった純朴なモンゴル人作家は、武闘にまきこまれて苦勞し、その嫌悪の感情をあらわにしている。

遠いアラシャン草原にいながら、作家は国際情勢の変化にも敏感に反応している。7月8日にはインドネシアの共産党勢力がふたたび結集しはじめた、との

⁷ 武闘と毛澤東との関連性について、文革当時のキーパーソンである王力や陳伯達らが発言している。たとえば葉永烈(2006)、陳曉農(2005)などがある。また、官製の『毛澤東伝 1949-1976』もそれを認めている(中共中央文献研究室 2003:1490-1491)。

ニュースに狂喜している。インドネシアの戦友たちもビルマの戦友たちもみな毛澤東の暴力理論にそって闘おう、と熱い一文をしあげている。世界革命をリードできるのは「社会主義の兄貴」たるソ連ではなく、中国だと信じている。10月28日にはチェ・ゲバラがボリビアで殺された記事を取りあげている。チェ・ゲバラ同志の失敗は、キューバの修正主義者カストロとの関係を断ち切らなかつたためだ。ソ連の指揮棒に従っていたからだ、と書いている。これは、中国当時の公式見解であろう。

見方はどうであれ、あるいはそもそも本当の意味での個人の見方などがなかつた時代である。それでも全人類の解放を任務としよう、という理想にモンゴル人も燃えていたのは事実であろう。

5. 1967年の総括、そして文革風言語の継承へ

1967年12月上旬、アラシャン左旗の北、モンゴル人民共和国との国境に近いところが雪害におそわれた。作家はかの地におもむき、遊牧民たちのあいだで数日間すごした。天幕のなかで、本の虫だった作家は読書に励んだ。手にはいるのはだいたいマルクスやレーニンなど「偉大な社会主義者」たちの略伝だった。病気になっても、偉人伝をよんでのりきろうと、作家は努力した。詩らしい詩はひとつも書けなかつた、と作家は12月31日に自白している。それでも、自分の人生にとって、意義深い一年間だった、としめくくっている。

吉越氏は、「戦争と革命の二十世紀」は二つの大きな政治言語経験をへたと指摘する。それは共産党言語とナチス言語である。中国における文革言語はマルクス主義政治言語の一類型である、という(吉越 2005:25)。たしかに毛澤東をはじめとする中国共産党員たち、そして一般の中国人民までつねにマルクス・レーニン主義的な言葉を振りかざして生きてきた時代がある。しかし、とくに共産党政治家の場合は、それは往々にしてご都合主義的に用いられていたのである。そういう意味ではもはや「真のマルクス主義」とはかけ離れたものであったにちがいない。

日記の作者がどれほど心からマルクス主義を信じていたかは検証のしようがないが、その文章の行間から文革風言語の特質が横溢しているのは事実であろう。

備考：

本研究は財団法人・平和中島財団による助成金「アジア重点学術研究」の一環として実施された「中国・モンゴル族が経験した〈文化大革命〉の実証研究」(2007年度)と、科研費「モンゴル族からみた中国文化大革命の実証研究」(基盤研究

C 大野旭（楊海英）代表）の成果の一部である。記して関係各位に感謝申し上げたい。

また、漢文日記のテキスト入力是中国中央民族大学蒙古語言文学系博士課程の永花さんの手を煩わせた。心から御礼申し上げる。

参考文献

陳曉農

2005 『陳伯達—最後口述回憶』香港：星克爾出版有限公司。

丁凱文

2004 『重審林彪罪案』（上、下）香港：明鏡出版社。

高樹華、程鉄軍

2007 『内蒙文革風雷—一位造反派領袖的口述史』香港：明鏡出版社。

祁曉萍

2006 『香花 毒草—紅色年代的電影命運』当代中国出版社。

任知初

1996 『〈紅衛兵〉与〈嬉皮士〉』香港：明鏡出版社。

師永剛 劉琮雄

2006 『雷鋒—1940—1962』三聯書店。

宋永毅主編

2007年 『中国文化大革命文庫』（CD）香港中文大学。

吳潤生

2006 『林彪與文化大革命』香港：明鏡出版社。

吳法憲

2006 『歲月艱難 吳法憲回憶錄』香港：北星出版社。

曉涵 米雅

1998 『789 集中營』香港：明鏡出版社。

亜衣

2005 『流亡者訪談錄』香港：夏菲爾出版有限公司。

楊海英

2007 『モンゴルとイスラーム的中国—民族形成をたどる歴史人類学紀行』東京：風響社。

葉永烈

2006 『王力風波始末』 香港：時代国際出版有限公司。

吉越弘泰

2005 『威風と頽唐—中国文化大革命の政治言語』 東京：太田出版。

中共中央文献研究室編

2003 『毛澤東伝 1949 - 1976』 北京：中央文献出版社。

一九六七年日記

三月一日

无产阶级文化大革命犹如急风暴雨，涤荡着中国的大地；有如春风化雨，改变着中国社会的面貌和人的精神面貌。无产阶级文化大革命的雷鸣，红卫兵的战鼓震撼着全世界，把世界上形形色色的害人虫，牛鬼蛇神吓得晕头转向。这是“四海翻腾云水怒，五洲震荡风雷激”的伟大时代啊，战斗时代啊，毛泽东时代啊。

我能够在二十一、二岁逢这样世界历史上从未有过的伟大的无产阶级文化大革命，这是莫大的幸运和骄傲。这是国内阶级斗争的大风大浪，这是共产主义革命的大决战，我如勇猛的海燕那样，迎着这个风暴，迎着这个闪电振翅冲向共产主义飞去。在这风浪中我将会看到一个全世界共产主义的榜样——红通通的中国。我将要成为一个具备毛主席所提出的五条标准的革命事业的红色接班人。

三月二日

无产阶级文化大革命是触及人们灵魂的大革命。只有触及我们的灵魂，才能达到文化革命的目的，才能防止修正主义，才能保持我国的鲜红颜色，才能实现共产主义。不然的话，只抓一些党内走资本主义道路的当权派的官，夺他们的权，而不能触及我们的灵魂，那末结果是思想上罢不了他们的官，修正主义的土壤还是存在，修正主义分子一个被打倒了，而第二个又会爬上来，甚至可能我们自己也会堕落变质。因此文化革命中我们不能有单纯把关的单纯军事观点，而应该把触及灵魂当做主要任务。

三月三日

“我们这一代青年将亲手把我们一穷二白祖国建设成伟大的社会主义强国，将来亲自参加埋葬帝国主义的战斗，任重而道远。有志有抱负的中国青年，一定要完成我们伟大的历史使命而奋斗终生，为了我们伟大的历史使命我们这一代要下定决心，一辈子艰苦奋斗。”

这是我们敬爱的毛主席给予我们的教导。毛主席对我们这一代青年寄托的希望多么大呀。是的，中国和全世界共产主义革命事业的胜利关键在于我们这一代。我们决不能辜负毛主席和全世界人民对我们的期望，我们一定要有这个志气和抱负，一定要按照毛主席的五条标准来要求自己，实现前人没有实现的伟大事业而奋斗。

三月四日

首都红卫兵三个司令部已经联合起来了，全国红卫兵也将要联合起来，红卫兵要成为全国性的统一的组织，要成为青年的战斗可靠组织。这是多么令人高兴的事情啊。红卫兵刚刚出现，我们敬爱的导师毛主席就在地平线上发现了它的无限生命力，把它培育成伟大的组织。我是文化革命中的青年革命造反者，将来红卫兵成为全国统一组织时我一定要争取参加。我要永远做毛主席的红卫兵，永远保卫毛主席，保卫毛泽东思想，为保持社会主义祖国的鲜红的颜色，为实现共产主义革命而奋斗终生。

三月五日

这几天我正在集中全部业余时间精读“党史”。读的当中的一个深感是：我们伟大党所走来的光辉灿烂的路程，也就是我们伟大领袖毛主席所探寻出来的光辉灿烂的路程。毛主席呀，毛主席，我们的毛主席他老人家亲自冲过多少风浪，他老人家领上全党绕过多少暗礁，才取得了革命的胜利。当陈独秀、秦帮宪等右倾，“左”倾统治我党的时候对毛主席进行那种无耻的排挤和打击，但是真理永远存在，我们的毛主席在那暴风骤雨里高举自己的革命红旗战斗出来了、杀来了。想想这一切，想想毛主席给予我们的山高海深的恩情，真情不自禁的掉下感激的眼泪。毛主席呀，毛主席，您太伟大了，您太辛苦了，您太英明了！您的心中装着全国人民，全世界人民，唯独没有您自己。

三月六日

热爱毛主席的伟大，
崇拜毛主席的天才；
学习毛主席的著作，
模仿毛主席的大奋，
跟随毛主席的道路，
忠于毛主席的事业！

三月七日

现阶段在我们伟大社会主义祖国里最大的危险，最大的罪人就是那些党内走资本主义道路的当权派，就是那些一小撮反革命修正主义分子，就是那些赫鲁晓夫式的人物。这些家伙儿连同社会上的地富反坏右牛鬼蛇神在一道死心踏地的大反毛主席，大反毛泽东思想，企图搞阴谋在我国实现资本主义复辟，企图把苏联的悲剧在中国重演。所以今后要革命的人一定要把这些家伙儿看在眼里；恨在心里，跟他们斗争到底，分个上下，把他们连根儿从中国的社会主义土地上挖掉。

三月八日

今天是三八妇女节。在今天的我的祖国里妇女们正有了自由、平等。旧社会里妇女受着层层压迫，不被看成人。女的和男的应该是百分之百的平等，因为他们都是一样的祖国亲生的儿女，都是一样的共产主义革命事业的奋斗者。妇女有多大能力就把多大能力显示出来为革命贡献。那些总把妇女看成下人一等，看不起妇女，甚至有些人的大男子主义等等都是腐朽的封建主义和资本主义社会的意识，我们应该彻底肃清。妇女应该和男人一样关心国家大事，天下大事，和男人一样劳动，一样学习，一样写诗，一样生活，一样奋斗。

三月九日

我最喜欢的是草原绿色海洋的波涛上澎湃击的朝日，因为朝日象征着伟大共产主义革命理想。朝日象征着我们伟大社会主义祖国的强盛。朝日象征着我青春时代。朝日更象征着我伟大领袖毛主席，象征着马克思列宁毛泽东思想。所以我永远向着朝日歌唱，向着朝日前进。“东方红，太阳生（升）……”

三月十日

生为共产主义革命而生，死为共产主义革命而死。

三月十一日

随着年龄的长大，爱情这个问题就为每个人必须碰到的问题。以往那些没有脱离低级趣味的人们，那些糊涂虫们，把爱情看作是高于一切，为了爱情再不惜其他一切。这是非常之庸俗之观点。爱情是人生中的问题，但是爱情不能离开一个人的革命理想，爱情如果离开了革命理想就是一堆男人发呕的窃窃私语和东去的流水。爱情也必须是革命的，爱情在人生中只能是次要的次要，不能成为高于一切的东西。

今日爱情必须是新型的，为革命的。伟大革命导师马克思夫妇的关系，我们伟大领袖毛主席和杨开慧同志的关系是革命爱情的典范。爱人就是革命同志，最亲密的战友，为革命应该并肩地战斗，为革命应该肩并肩地上刀山入火海，为革命的需要应该牺牲爱情的一切。

三月十二日

我现在年令已大，爱情的问题就会面临。所以对此我应树立一个革命的、正确的、全型的观念，我不能像有的人那样把爱情当作生活的第一重要，不能用爱情当作琴来弹，不能用爱情当作开玩笑的东西，不能为爱情牺牲很多宝贵的时间……我要有个高尚的情感，要脱离低级趣味。当然也要解决。但不能过多的追求，闲淡而适度、适当，要为革命理想着想。

三月十三日

文化大革命中群众要教育自己。这是毛主席的思想。“群众自己教育自己”，这是多么语重心长的话啊！这是毛主席对人民群众的最高的评价，最大的信任，最大的期望，最亲的群众。我做为一个革命青年，文化大革命的革命造反战士决不能辜负敬爱的毛主席的期望。我应该自己教育自己，自己触及自己的灵魂，通过文化大革命我一定要争取成为一个新型的共产主义青年，争取做一个具备毛主席对革命接班人五条标准的、高尚的人，纯粹的人，有道德的人，脱离了低级趣味的人，有利于人民的人。

三月十四日

今天我旗新生的革命委员会率领几千个革命造反派战士，在早晨五点钟一举夺取旗委人委的权，为阿拉善左旗的历史上写下了革命的、光辉的一页。部队等大力支持夺权，使一些阴沟里的害人虫胆战心惊。我做为一个革命的造反派成员之一，高兴地参加了这次夺权。

现在在全国范围内自上而下的夺党内走资本主义道路当权派的权。这是世界革命上从未有过的防修、打修的伟大创举，是毛主席的天才战术，是将来和修正主义分子进行斗争的大演习。将来一旦若有修正主义出现我们就要这样去打人民战争，夺权、夺权，永远使我们不变颜色。

三月十五日

夺权胜利的第一天我特别高兴，因为我在前一场阶级斗争的暴风雨中可算没有失去方向；寻找、斗争、走出了一条真正革命的路。我没有走错路，也没有被蒙蔽，我为这一场伟大的文化革命献出自己的满身力量，就像大海里的一滴水一样。通过这场复杂的夺权斗争我把书本上学到的，了解到的东西用到实际当中，学到了不少斗争知识，提高了斗争艺术。但夺权，这只是走完了二万五千里长征的第一步，我的斗争成功地走完了第一步。今后的革命路程还长，今后的人生路程还长，我务必继续前进，战斗……

三月十六日

“三，一四”夺权夺定了。绝大多数革命群众和革命组织热情欢呼，坚决支持这次夺权。过去有些受蒙蔽反对过的人大部分已经清醒过来。

这是毛泽东思想的伟大胜利！

三月十七日

斗争啊，斗争，急风暴雨式的激烈的阶级斗争啊，它是最复杂、最复杂的！什么是斗争，什么是阶级斗争，过去我理解的太笼统。现在通过一段夺权斗争，在这胜利之日再回顾一下，往回看，走过的几个月的路程多么充满了斗争，充满了矛盾啊！这就是斗争，这就是阶级斗争！我们革命造反派就是在这个斗争中战斗、觉醒，胜利的！我要成为一个斗争的火花，成为斗争中的战士！我只有在斗争中去寻找，跟随革命的路！真正革命的路！

三月十八日

世界上的事物是复杂的，所以一个人在斗争生活中必须要有远见，不能只看眼前。要有政治头脑，战略中胜，战略头脑，阶级分析的头脑，革命的清醒的头脑。不能死板顽固，不能有主观主义，不能老认为自己想的对，必须从客观上看问题。所以说立场坚定是说的站到正确立场上的坚定，不是说非正确立场上的坚定。真理在自己这边就必须坚持，真理在人家那边就必须投降；这才叫立场坚定。这几个月的斗争中有的同志就是犯了这种错误，所以长期受蒙蔽，结果走向自己的反面。这些教训也值得我也吸取呀！

三月十九日

我们夺取权力了，胜利了，但是万万不能骄傲自满，停止不前，自高自大，看不起别人。我要继续奋斗，特别和自己的灵魂打交道，要触及灵魂。同时要正确对待其他同志，特别是那些受蒙蔽的同志，要热情对待他们帮助改正错误，要争取团结他们回到革命的正确路线上来。

毛主席教育我们：“要善于团结那些和自己意见不同的人，还要善于团结那些反对过自己，并且已经被实践证明是犯了错误的人。”现在我们应该思考主席这一教导呀！

三月二十日

今晚召开几千人的批判大会斗争了修正主义民族分裂主义分子，前旗委副书记图布和阶级异己分子蔡楚鲁。这都是赫鲁晓夫式的人物，是祸国殃民的害人虫，是共产主义革命事业的绊脚石。这些家伙企图在我们红光照耀下的祖国搞资本主义复辟，搞修正主义。我们不打倒这些家伙怎么能革命，怎么能生存？“消灭一切害人虫，全无敌”。

三月二十一日

文化大革命对我们人生的意义是什么？对我们青春的意义是什么？我认为就是“触及灵魂”，就是我们在文化革命中也得革自己的命，实现革命化，共产主义化，成为一个真正的革命者。

三月二十二日

我们是革命的青年，是共产主义事业的接班人。我们要为我们无产阶级争气，要为伟大的毛泽东时代争气，我们要敢于蔑视古今中外的一切封建权威，资产阶级权威，我们也敢于超他们，压到他们，要创造出他们所梦想的奇迹，要用我们的双手建出我们红通通的世界，造出我们的一切。我们不能“崇拜”那些人，不能以为他们是了不起。其实，他们也没什么了不起。

革命儿女多奇志，取超前人创新世。

三月二十三日

在疾病面前我要成为焦裕禄。要像焦裕禄同志那样轻伤不下火线，带病上阵，为人民为革命工作。现在我有病，但是我不能因此而停止革命工作，我应该像焦裕禄同志那样忘掉病工作。这一生中不要说这点小病，就是有了致命的疾病也好，我有一天生命为党为人民，为革命努力工作一天，自尽所能，鞠躬尽瘁。当然我要爱护自己的身体，为人民多活几年，多做些工作。但我不能做养病吃饭的寄生虫。

三月二十四日

“我们不但善于破坏一个旧世界，我们还将善于建设一个新世界”。同样，我们不但能“破”封建主义，资本主义的旧文艺，我们也能“建”我们无产阶级自己的社会主义、共产主义的新文艺。我坚信通过文化大革命我们社会主义祖国、社会主义民族的光辉灿烂的新的真正革命的文艺一定会兴起。让我们举起双手迎接这个伟大的来临吧。

三月二十五日

“无产阶级的文学艺术是无产阶级艺术革命事业的一部分，如同列宁所说，是整个革命事业机器中的齿轮和螺丝钉”。

三月二十六日

今日从巴音浩特来到繁殖场。我们的任务是以旗革命委员会的派遣来抓革命促生产。我是来为人民服务的，是来抓革命的，和真正革命派战友们一道搞牧场内文化革命的。是来促生产的，和革命群众一起搞好春耕的。我们的任务中，一定要完成夺权后革命委员会布置的这一任务。

毛主席教导过我们：“我们的一切工作干部不分职位高低都是人民的勤务员，我们所做的一切都是为人民服务”。我来到这里不是做官当老爷来的，不是指手划脚来的，不是反办代替来的，不是舒服休息来的。我必须当这里革命群众的学生和战友。我在这一段时间里要在这里群众中扎根生长。

三月二十七日

今天我和场里工人们一起参加劳动。我虽然有病，但是参加劳动不但克服疼痛，而且精神非常愉快，舒畅。因为只有劳动一斗争才能真正的幸福。只有和工人一起劳动，才能和工人结合，才能了解工人，才能依靠工人，才能学习工人，才能帮助工人。

三月二十八日

我是群众的学生，在群众中我应以普通劳动者的身份出现，以学生对待老师的那种态度对待群众。对群众我必须诚恳、谦虚、耐心，特别要有度量，态度上要特别注意。要按着群众的需要和自愿，我要理解他们的心情，理解他们的愿望，关心他们的切身利益，不论如何要相信他们。即使是对于那些落后的群众也要相信他们会觉醒起来的，对他们要热情、耐心，他们的意见跟我不相同甚至对我提意见，反驳我的正确观点也好，我还是不能着急，不能忘掉他们是群众，不能忘掉自己的责任，不能忘掉主席的教导，要慢慢启发他们认清。只有这样我才能在群众中扎根生长。

“人民，只有人民才是创造世界历史的动力”。

“群众才是真正的英雄”，人民万岁，群众万岁！

三月二十九日

发动群众是最重要，最艰难的工作。需要一种斗争的艺术，更需要用毛泽东思想去启发，引导群众。

三月三十日

我要用自己的双手为祖国的社会主义大厦里多添一块砖，多抹一锹泥，这就是我的幸福，就是我的责任。

三月三十一日

文化革命的暴风骤雨洗涤着祖国的大地，文化革命的春风化雨触及着我们的灵魂。祖国的一小块地方——我们这里也同祖国的大地一样呈现着文化革命的大好形势，我相信我们这次文化革命一定会搞好，搞到底。通过文化革命我们这里也一定会变成红通通地毛泽东思想的新世界。

四月一日

文化革命有大战役、小战役。这次是大战役。这次战役中我们一定要把反革命的修正主义分子揪出来，把党内走资本主义道路的当权派打倒。特别是要把党内最大的走资本主义道路的当权派拉下马，让他靠边站，誓死保卫毛主席。子子孙孙忠于毛泽东思想，保证我国永不变色。

四月二日

最近几天在我们开展文化大革命的祖国，掀起了挖掉反动路线总根子的高潮。这个总根子就是党内最大的走资本主义道路的当权派，就是那个刘少奇。

刘是赫鲁晓夫式的个人野心家和阴谋家，是睡在我们身旁的赫光头。这个刘白头 20 多年来一直反对世界革命的导师，我们最敬爱、最伟大的领袖毛主席，他企图像赫鲁晓夫攻击斯大林那样，挤掉我们的毛主席，企图篡党篡国，他对我们毛主席怀恨在心，象一条毒蛇那样一直藏在毛主席身旁，象一颗定时炸弹那样埋在毛主席的身旁。刘白头妄想在中国搞资本主义复辟，妄想对七亿革命人民下毒手，妄图阻止全世界共产主义革命历史车轮的前进。这样的定时炸弹不挖掉我们怎么能保卫毛主席呢？这样的毒蛇不找出我们的人民怎么能活下去呢？一千个理由，一万个理由把刘白头拉下马。“天若有情天亦老，人间正道是沧桑”。现在把刘白头挖出来了，这是大快人心的大喜事。我们要用鲜血和生命保卫毛主席，子子孙孙保卫毛主席，不论现在和将来谁要是反对毛主席，谁要是走刘白头的路，就会党共讨之，全民共诛之，我们就和他拼到底。头可断，血可流，毛泽东思想不可丢，毛主席不可离。只有跟着毛主席才有一条革命的路，只有保卫毛主席才有我们的一切。

打倒刘白头！

誓死保卫毛主席！

毛主席万岁，万岁，万万岁！

四月三日

一个革命者的修养必须是无产阶级的修养，必须是共产主义的修养。修养上我们一定要破几千年来的那些封建主义、资本主义、小资产阶级的旧框框，必须把他们的破烂不堪的所谓“修养”一脚踢开，建立起我们无产阶级的真正的修养。什么叫“修养”，过去的没落阶级用它来束缚、危害革命人民的革命性。党内最大的走资本主义道路的当权派刘白头挑出他们所谓“论几点党的修养”一书危害我们。我们再不能受这些修养者的危害了！我们应该开始我们无产阶级战士的真正的革命修养的时候了。

四月四日

横眉冷对刘白头，俯首甘为毛主席。

四月五日

斗争就是幸福，在斗争中求幸福，求愉快，求真正的革命人生。斗争一时不离真正的革命者，因为革命者的生活就是斗争，工作就是斗争。

四月六日

今天在大风中又劳动了一天。来繁殖场工作的这一段时间是我们已经参加了好几天的劳动。我不知什么时候才能在体力劳动上过硬。我真心希望先参加 3~5 年的农业或牧业劳动，好好锻炼自己。

四月七日

我生活在伟大的毛泽东时代，生活在毛主席领导的伟大社会主义祖国是多么幸福和自豪啊！毛主席是全世界革命人民的导师，是全世界劳动大众的救星。毛主席就是今日的马克思，今日的列宁，是活着的马克思，活着的列宁！现在世界上有多少人走着毛主席的道路，多少人冒着生命危险，学习毛泽东思想，多少人用自己的鲜血和生命从事着毛泽东的事业！

我现在虽然还没有见过毛主席，但是我每时每刻在毛主席的阳光照耀下革命、斗争！我有毛主席著作、毛主席语录、毛主席诗词、毛主席的教导下成长！其他国家的人民哪里有这样的幸运，我们太幸福了、太幸运了，太光荣了！我应该不辜负毛主席对我们的期望，应该做一个毛主席的好青年，好战士。战斗啊，战斗，一生战斗在毛泽东的旗帜下。战斗啊，战斗，一生战斗在毛泽东的事业中。跟着毛主席，向共产主义飞去，跟着毛主席，在革命路上前进。

四月八日

“人民，只有人民，才是创造世界的动力”。人民最伟大，最纯粹，最高尚。我永远是我人民的儿子和勤务员。

四月九日

分清敌我，这是个非常艰难的事情。好多时候，在我们的对面有我们的敌人的同时，还有被敌人所拉拢蒙蔽的我们的同志，我们必须要看清谁是敌人，谁是自己人，要打击敌人，争取自己的同志，团结自己的同志。

四月十日

今日从白石头繁殖场回到了巴彦浩特。

四月十一日

一个革命战士应该时刻想着革命，想着自己对革命的责任，想着革命化。从而在自己生活的每一个节奏都要响出革命的声音，自己的每一步伐都在革命的节奏声中迈开。这就是说时刻从革命的大处、远处着想，严格地要求自己，使生活斗争化，规律化，也就是革命化。

四月十二日

“春风杨柳万千条……红雨随心翻作浪。”

近日收到碧丽格的第一封信，读到充满革命青年战斗激情的词句深为感动。我们的友谊不能是那种欣赏花的腐朽的资产阶级的无意的友谊，我们的友谊应该是肩并肩的向共产主义革命前进的革命的友谊。应该是生死共同的为天下劳苦大众的解放而斗争的战斗的友谊，应该是齐声同情地抒发无产阶级伟大事业理想的友谊。

“我们都是来自五湖四海，为了一个共同的革命目标走到一起来了”。没有一个共同的革命目标哪里还有革命友谊呢。这个共同的革命目标才是我们革命友谊的基础和出发点。

四月十三日

毛主席就是英明伟大，毛主席就是全盘相信人民群众。人民拥护毛主席，毛主席拥护人民，人民忠于毛主席，毛主席热爱人民。毛主席为了人民献出了自己的一切，也正在献出自己的一切。人民，为了毛主席死且不避，洒血不关。所以人民才从内心里喊出“毛主席万岁”，毛主席也从内心里喊出“人民万岁”。

前些时候好多地方都宣布这个组织是反革命，那个组织是反革命。当时我就想不通，难道我们文化革命中真的有这么多反革命组织，难道那些生在贫苦家，长在毛主席阳光下，大胆投入文化革命的人真的都是别有用心反革命。他们当中绝大多数就是为了用鲜血和生命保卫毛主席而无所畏惧的投入了文化革命，他们是犯了错误，有的革命者走向自己的反面，但是他们根本不是什么反革命。把那些人打成反革命这是反动路线，这是罪祸。至于对那些极少数的，真正的反革命分子当然应该采取行动，这是合情合理的。我们应该分清敌我，不能把同志当作敌人来对待。

现在中央 117 指示出来扭转了这种资产阶级反动路线的复辟逆流。

四月十四日

今天革命生产委员会决定派我到伊盟工作几个月，我非常高兴。一个革命青年应该像一只雄鹰那样展翅飞翔。飞遍祖

国的锦绣河山，看熟祖国的每一块地方，热爱祖国的一草一木。

四月十五日

人们常常爱说“交往”，即人民互相之间的关系。有的人说：只有那些鼠目寸光的伪君子才把交往看的那么自私，那么患得患失。我说：只有那些愚蠢无知的糊涂虫，才把交往看得那么轻易，那么低级无意。腐朽的封建阶级、资产阶级把人们的交往看成为有利金钱关系，爱情关系，吃喝关系……等等，等等。简直是没意思。我们是革命者，无产者，共产主义者，共同的革命目标才是人们之间交往的根本基础，交往必须交目标，交理想，交志气。其他都应该是次要的东西。没有一个共同的革命目标怎么能走到一起呢？怎么能有友谊、团结、知心呢？

四月十六日

共产主义思想当初是马克思所创造的，最先发起的，当然是列宁、毛主席继续发展的。共产主义不是从天上掉下来的，而是从人类几千年来历史过程的最先进最革命思想的精炼。所以自古以来的所有的最先进、最革命的积累就是共产主义的。今后随着历史的发展，当然还出现过去所未有的新的积累。我们的共产主义革命事业也是在前人的事业中的最先进最革命的事业的基础上建立起来的。所以我们应以历史唯物主义的观点去正确对待过去的历史，应该继续从过去的历史中炼一部分精华，充实我们的事业，应该更加创造新的东西。

四月十七日

文化革命的多次反复是什么？我现在才有着具体的感受。我认为这样多次的反复是好的，只有千锤百炼才能炼出真正的金子，这对革命有利，对我们年青一代的锻炼成长有利。

前一个时期被打成“反革命”的呼市第三司令部现在成为最革命的组织，这样巴盟的东方红总队又出来了。我们阿左旗的东方红，红卫兵团等组织又出来了。红卫兵团等开始造反，又向我们红色造反兵团开火了。究竟谁是最革命的只有走着才瞧。我相信我们是革命的。“不怕风吹浪打，胜似闲庭信步”。

四月十八日

今日赴伊盟途中来到银川，看到很多大字报，听到许多新消息。出来见见世面，很有好处，能开眼界，能了解大势所趋。

当前全国无产阶级文化大革命形势大好，银川的实事也证明了这一点。

四月十九日

晚上看了反动影片“清宫密史”，一看就看出它的内容很反动，形象很下流，真是一个卖国主义的货色。但是党内头号走资本主义道路的当权派自称为“刘克思”的刘白头都说是爱国主义的。可见刘白头的所谓爱国主义就是卖国主义。刘白头就是卖国主义人物，就是卖我们社会主义祖国的人物。“清宫密史”应彻底批判，刘白头一定要拉下马。

四月二十日

今日乘火车头到石嘴山市。
千里河山东风吹，祖国到处新气象。
文化革命战歌齐，革命人民心连红。

四月二十一日

今天来到鄂托克旗的所在地—乌兰镇，第一次踏上鄂尔多斯草原的金色大地。“我好像双翼的神马，飞驰在草原上，哈哈嗬嗬，为了远大的理想，像燕子似的飞向远方……”

四月二十二日

节约时间就是延长生命。时间对我们来说多么的宝贵呀，我们应珍惜它，节约它，要用更多的时间为人民多做些工作，为革命多做些工作。

这次来这里工作我可能有不少空闲时间，这些空闲时间我应该全部利用好好学习，不能白白过，不能光睡觉。

四月二十三日

“一切革命队伍的人都要互相关心，互相爱护，互相帮助”。我应该和一起工作的每一个同志，不管它是如何，不管他对我怎样，都要以至诚相处，要有阶级感情。不能老脱离大家，不接近大家。当然要有革命的原则，同志间的关系应严肃又热情。

四月二十四日

身居蒙古包胸怀国家，站在草原放眼天下。我虽然工作在偏僻的旗级城镇和牧区，但我应该每时每刻关心国家大事，关心天下大事；应该多看报纸，多听新闻，多谈论大事。随时了解形势，分清大是大非。当前更应该关心文化革命的大事，要单独分析思考，要从远处处处着想。

四月二十五日

今天乘车从鄂托克旗来到杭锦旗。在这里将工作几个月。我有机会能深入鄂尔多斯生活，能欣赏鄂尔多斯动人的歌曲并感到兴奋。这是一生中难得的机会呀！

四月二十六日

我的同学到处都有，几乎分布在全内蒙。我们都是同一杆红旗下长大，同一个学校里学习长大的。同学这是多么亲切的称呼，他表达了我们河深海深的阶级感情。我们光荣地战斗在祖国各个角落的各个岗位上，我们都是毛泽东的年青忠实践者，都是祖国的革命儿女。我爱我的同学。

在这杭锦旗工作的同学—仁钦（原五班），宝玉智（原十一班，斯琴巴特尔）今天一见我如此热情，真诚地感到温暖和骄傲。

四月二十七日

从西尼镇乘车来到伊克乌素公社，这里真有草原风味。“牛羊肥哟，马儿壮，草原一片新气象……文化革命东风吹，草原骑上千里驹”

四月二十八日

我是人民的勤务员，我所做的一切都是为人民服务。今天我们步行到方旗山，晚上又进行了宣传。和群众在一起真亲如一家，格外舒服。

四月二十九日

文化革命像春风化雨，改变着我们的社会面貌和人民的精神面貌。在这文化革命中出现了多少可泣可歌的英雄人物和英雄诗篇。有无数革命者在这场革命的大风大浪中，显示出自己的革命的热情和对革命的一片丹心。他们在反动路线的压迫面前在阶级敌人的迫害面前赴汤蹈火，视死如归，真正做到了用鲜血和生命保卫毛主席，保卫毛泽东思想，保卫无产阶级江山，保卫人民的利益！这些人都是今天的英雄，才是今日的革命者。我非常敬爱他们，想到他们就由衷起敬！这里有：十几年以前就批判刘少奇的“假修养”一书而入“精神病”院的陈玉宁同志；和王光美的反动路线进行斗争而入狱坐牢的蒯大福同志；写出第一份马列主义大字报的聂元梓同志。他们的形象是多么伟大！他们的立场是多么坚定！他们就是今日的鲁迅，今日的方志敏，今日的刘胡兰！他们是我学习的榜样！

我要像这些英雄们一样一辈子保持革命者的气节，一辈子要和一切害人虫斗！什么时候出来修正主义，挖出赫鲁晓夫式的人物我就用我钢刀般的军队弹药，用生命和他们斗争，要革命，要造反！

文化革命的英雄们的革命精神万岁！
文化革命的英雄们的精神常青！

四月三十日

从伊克乌素公社来到巴音木仁公社到运动畜群指挥部一开会地点参加会议。

五月一日

今天是五一劳动节。是全世界劳动人民的节日。我登高远眺，看望展开文化大革命的伟大的社会主义祖国的多骄江山和劳动人民的每一个笑脸，心里翻起兴奋的巨浪。在伟大毛泽东的阳光照耀下我们祖国的劳动人民多么自由，多么幸福！

可是就在今天这个劳动人民的节日，全世界的三分之二的劳动人民和修正主义统治区的劳动人民还是过不上自由幸福的日子，他们今日还在害人虫一剥削阶级的压迫之下生活，他们还在水深火热之中！我想到这些无产阶级和劳动阶级弟兄们心里就难过，就冒起战斗的火焰。

我是国际主义革命战士，是伟大毛泽东的忠实者，是全世界劳动人民的儿子，我有决心将来亲自参加埋葬帝国主义的斗争，为全世界劳动人民的解放事业献出自己的力量、歌声和鲜血、生命！

五月二日

从广播里听到毛主席昨天晚上，同首都三百万群众欢聚度过“五一”晚会的录音报导以后我一直沉浸在欢乐之中。毛主席呀，毛主席，您今天领导我们搞人类历史上从未有过的文化大革命，为全中国全世界劳动人民开辟着共产主义的道路，为劳动人民创造着子孙万代的自由幸福。只因为有了您，我们伟大社会主义祖国的人民才有今日的五一欢乐。祝您，为全世界劳动人民而活一百岁！祝您万寿无疆！

五月三日

我们为人民服务，必须要了解人民，必须要了解人民的困难，要理解人民的心情和希望。如果不知道人民的困难根本谈不上为人民服务。

五月四日

今天是我们社会主义中国青年的光辉的节日，在我的胸中翻腾着节日诗篇的千言万句；在我的脑海中回旋着青春时代的豪情壮志。

我是幸运地生活在伟大毛泽东时代的青年。我是光荣地战斗在伟大共产主义事业中的青年。我是激昂地歌唱在革命文学行列中的青年。我正在朝气蓬勃，好象早晨八九点钟的太阳。我的青春是多么可爱，我青春的共产主义革命理想更是多么可爱。我爱我的青春，我更爱我青春的共产主义革命理想。

毛主席说：“我们这一代青年将来亲手把我们一穷二白的祖国建设成伟大的社会主义强国。任重而道远。有志有抱负的中国青年要完成我们伟大的历史使命而奋斗终生，为了我们伟大的历史使命我们这一代要下决心，艰苦奋斗一辈子”。我一定要按着毛主席对我们的期望要发出青春的光和热，献给伟大的共产主义革命事业。

我们这一代任重而道远
建设祖国，解放全世界。
火红的年华，火红的青春，
毛主席的期望记在心间。
让青春发出光和热……

五月五日

一个革命者不能以个人利益影响革命利益，不能把个人的得失考虑过多，不能随心所欲的干个人一些事情。

五月六日

革命的道路是曲折的，艰难的。干革命就是要准备走这种曲折的、艰难的道路。要想找到平坦的，简直的道路，而去革命，这只能是非革命的幻想。

五月七日

近日乘车来到巴彦高勒，看到和听到的东西不少。看来文化革命中我们只是经历了几次反复，只是受到了一点锻炼。而更大的更多的反复肯定还在后头。这种多次的大反复不是坏事，只有通过这样多次的大反复，我们文化革命才能最后取得胜利，我们年青一代才能真正得到千锤百炼的锻炼。

五月八日

黄河流在河套平原中，汽车奔驰在黄河岸上，春日农村一片新气象，祖国到处飞跃前进。今天从巴彦高勒出发乘车来到杭锦旗鄂里斯太公社。

五月九日

今天骑自行车来到我们阿左旗吉兰太公社运动的几个牛群上。

五月十日

革命的文学艺术应该是前进的革命队伍的战鼓和号角，应该是时代的声音。所以革命文学艺术的最大的任务是反映现实生活，为我们政治斗争服务。

五月十一日

人民公社是我的家，人民公社社员是我的亲人，人民公社的牧畜是我的财产，我要保护自己的眼珠一样保护人民公社的经济。

今天从鄂里斯太公社出发来到巴拉贡公社——我得去吉兰太公社四大队运动的牛群上，看到还在圈着喂得几十头牛真是心痛。我是工作组员，是人民的勤务员，我必须想尽一切办法解决这一牛群上存在的问题。

五月十二日

在这牛群上帮助社员锄了一天草，真有点儿累，但这是我应尽的义务。我必须要和社员坚持同劳动，要学习他们艰苦朴素的作风。

经两天东奔西跑这群牛的问题基本上已经有了解决的办法和途径。

五月十三日

今天风沙特别大，打的人们睁不开眼睛，迈不开步伐。在这大风沙里我携上东西，从牛群上出发奔向三盛公。晚上来到三盛公。

我是养成这样一个“脾气”，越是有大风越要冲，越是有大浪越要闯，越是有困难越要上，这才是革命的硬骨头精神，才是革命的乐观主义精神。

五月十四日

三盛公的文化革命出现为激烈的形势。

五月十五日

“文化革命的反复”这一名词我才开始理解。

五月十六日

革命不怕死，怕死不革命，只要中国不变色，死了也甘心。

五月十七日

一个革命者必须要有政治的远见，阶级的立场，必须透过现象看本质，透过眼前的迷雾看到天空中的光明，放弃个人的安危坚定地站到岩石的顶峰。

五月十八日

今天我得到了一个文学劳动者最最喜欢的小红书——“毛泽东文艺”。这本精装小书的样式和我的“毛主席语录”一模一样。我多么需要这种小红本，我多么珍惜这本小红书。今后的漫长的岁月中，我将手不离这本小红书，拿着它，去从事革命文学的光荣劳动；拿着它，去创造人类历史上从来未有过的无产阶级的光辉灿烂的新文艺作品而献力；拿着它，吹起前进中的革命行列中的号角；拿着它，歌颂光辉无限的共产主义的明天；拿着它，为工农兵服务，为人民服务……

五月十九日

在当前文化大革命的搏斗中，在阶级斗争的大风大浪中，显得摇摆不定的那些所谓三道派仙，那些两面派们，那些墙头草们，那些机会主义者们，那些折中主义者都是些立场不坚定的人，都是些鼠目寸光的伪君子。这样的人如果遇到革命的真正考虑的时候，遇到遭受个人畏难时刻会叛变革命，会当叛徒，会出卖革命的利益，党的利益。

我不能向这号人物学习，而要坚定地抛弃这号人物。我要独立思考，找到革命的路，革命的派别，以后像红岩山的青松一样保卫无产阶级的立场。头可断，血可流，革命的立场不可丢，何况个人的一些小利益呢？

五月二十日

“毛泽东自传”近日略读完毕。我们伟大领袖毛主席所走的人生道路是一条最革命，最光辉灿烂的路，最有战斗性的路。毛主席从来就是一个最高尚，最纯粹，最有道德，最脱离了低级趣味，最有利于人民的人。毛主席的伟大思想以外，他的伟大人格，他的一举一动都是我们所学习的榜样。

五月二十一日

今天从三盛公乘车来到杭锦旗西尼镇。一路上看到雨后的一望无际的绿色草原和开在原野的各种花儿，吃在绿色原野的牛、马、羊、骆驼群，一种心情涌现在脑子里：我爱祖国的牧区地方。

我是长在农区一半农半牧区的人，如今来到牧区工作。我对农区深有感情，对牧区更有了感情。不管是农区或是牧区，都是祖国的金色土地，都是我们生长的地方，都是社会主义的摇篮。我为牧区的革命和建设献出自己的一点力量和智慧而感到自豪。我把我终生的革命激情和诗句歌声献给祖国的社会主义牧区，为把牧区建设成共产主义的天空而努力奋斗。

五月二十二日

艰苦奋斗，这句话很有含义。不管在什么时候、什么地方、什么条件下，一个革命者必须要奋斗，要努力，要向上，要乐观，要严格要求自己。数十年如一日，艰苦奋斗一辈子，才能对革命做出点贡献。

五月二十三日

今天毛主席的光辉著作“延安文艺座谈会上的讲话”发表二十五周年。

二十五年前毛主席发表这篇讲话，宣布了无产阶级革命文艺运动新纪元的开始。它像一座灯塔，照亮了我们前进的胜利道路，它像一颗启明星，预告工人阶级文艺将以崭新的面貌出现于世界；它像一份判决书，宣判一切反动的，腐朽的资本主义文艺和封建主义文艺末日已近。

我是年青的文学爱好者和文学劳动者，“讲话”是我的文学劳动的“座右铭”。宣传共产主义革命，宣传马列主义毛泽东思想是文艺的最高使命，也是我的天职。我想把毛泽东文艺思想活学活用，武装自己，为无产阶级光辉灿烂的新文艺的兴起而奋斗终生。

五月二十四日

“四海翻腾云水怒，五洲震荡风雷激”，我们这个时代是伟大的革命时代。在我们活着的今后几十年中世界人民将要同帝国主义和反动派血战到底；消灭一切害人虫，得到人类解放。中国人民将要把一穷二白的祖国建设成世界第一个强国，保证鲜红的颜色，为人类树立榜样。我们伟大的蒙古民族也将随着中国大家庭，和其他兄弟民族一道日益兴盛繁荣，立于世界民族之林中。

活在这样一个伟大的时代和伟大的国土上，作为伟大的毛泽东的青年，我们这一代任务多么重，道路多么长啊！

五月二十五日

什么是始终有终的壮丽的青春，什么是无愧无悔的真正的人生；什么是我们应尽的责任和天职；什么是应求的美丽和宝贵；这一连串的质问常在我的心中风起云涌。

五月二十六日

我最喜欢的是草原绿浪上喷薄（蓬勃）欲出的朝日。因为朝日象征着伟大共产主义革命理想。我向往那遥远的共产主义社会—人类解放的明天。我坚信世界的未来一定属于共产主义的。不论在什么时候，什么地方，什么条件下我都毫不动摇地为共产主义理想而活着，战斗着，劳动者，歌颂着，这就是我的理想。

五月二十七日

我个人，对于革命事业来说就如大海里的一滴水，大机器上的一颗螺丝钉。我的能力是有限的，在我们的伟大事业中我只能做一部分工作，进一部分责任。但是究竟尽多大的责任，作出多大的贡献，这完全由我的努力来决定。我深知我的义务和责任。我对自己的事业，对党，对人民应用较大的贡献，因为我是毛泽东时代的青年。

五月二十八日

群众才是真正的英雄，群众才有真正的高尚。那些害人虫老爷们，那些对不起群众的官员政客们，他们才无知，他们才什么也不知道。

五月二十九日

在当前文化大革命的激烈斗争中，在两条路线两个阶级的搏斗中我要看清政治方向，向着一个目标奋勇地斗争下去，决不中途妥协。我要成为一个独立支持的大树，不做一个向两旁偏倒的小草。

五月三十日

我要把革命所需要的，自己应掌握的全部知识安藏装进自己的脑子里，将它发出光和热献给我们伟大的事业。我要有文学知识，还应该历史知识，哲学知识，地理知识，音乐知识，图画知识，更应该有社会知识，生活知识。

五月三十一日

毛主席著作对我来说是理想的讲坛。生活的教科书，道德的问事处，行动的地图，是人生的必修之路。学习毛主席著作是我做人的必由之路。

六月一日

今天是六一儿童节。今天我作为一个青春时期的青年，高兴地看到我们的小弟小妹们，今日的少年儿童们在伟大毛泽东思想的阳光普照下，正以惊人的良好情景追求成长。他们个个都是那么可爱，那么聪明，那么活泼，特别是有革命精神，造反精神。他们将把我们一穷二白的祖国建设成伟大的社会主义强国，保证其鲜红的颜色，他们将亲自参加埋葬帝国主义的斗争，去解放全世界劳苦大众。他们和我们都是祖国的未来，人类的未来。我爱这些小弟小妹们，如同爱我自己的胞弟胞妹们一样。

帝国主义的阴谋家们，修正主义的老爷们，牛鬼蛇神先生们，你们看着我们这一代是怎样地成长吧。你们已经看错了对象，打错了算盘！你们想和平演变的梦已经破灭了。我们永远是革命的一代，永远是你们的掘墓人！

六月二日

要奋斗就会有牺牲，为有牺牲多壮志，敢教日月换新天。当我想到那些用鲜血和生命保卫着毛主席和他的伟大的事业的文化革命的战友们的时候，就不由地肃然可敬。他们才是我们此时此刻真正的英雄，他们的生活才是革命的战斗的人生。我们头可断，血可流，毛泽东思想不能丢。为了保卫遍布各地的伟大事业，我随时准备要献出鲜血和生命！

六月三日

今日在招待所接到德力格从三盛公来的电话。

六月四日

“天若有情天亦老，人间正道是沧桑”。毛泽东思想的真理永远存在。

六月五日

今天乘车来到三盛公。

六月六日

巴盟的文化革命已经定局，“联总”宣告失败，“东总”取得胜利。

六月七日

今日来到银川市。

六月八日

今日到达巴音浩特。巴音的文化革命定局，“兵团”已（以）失败告终。

六月九日

我们参加的组织“兵团”已经跨了。战斗队也垮了……

六月十日

革命是件不容易的事情。

六月十一日

“抬头望见北斗星，心中想念毛泽东……”

六月十二日

“坚定”和“顽固”是各有阶级性的。相对的。

六月十三日

一个革命者应该迎接暴风雨的到来。

六月十四日

今天从巴音出发，赴伊盟途中来到银川。

六月十五日

革命不怕犯错误，错了就改。但心里真正知道自己是错了，怎么错了，这时候才能改。

六月十六日

今天乘火车从银川来到巴音高勒。

六月十七日

严格要求自己，严格，严格，严格！不论在什么时候、什么地方、什么情况下都应该严格要求自己。从早晨一起来做操锻炼，背诵主席语录开始到晚上记日记总结全天工作再睡觉，一天的生活、斗争、劳动、学习中必须高标准严格要求自己。不严格要求自己就等于混日子。人生的每日每时必须严格自己的、向上的、革命化的时间。

六月十八日

一早听到我国昨天在本国西部地区上空成功地爆炸了第一颗氢弹的振奋人心的消息之后心理万分激动。祖国啊，祖国，我一穷二白的祖国！您在伟大毛泽东的天才领导下正在一日千里，飞跃前进，正在梦景一般繁荣强大。我们有充分的信心，克服一切艰难困苦将我国建设成为一个伟大的社会主义祖国。

我的伟大而光荣的祖国万岁！

六月十九日

今日到黄河里去练习游泳，感到空前的豪迈和兴奋。“不管风吹浪大，胜似闲庭信步”。黄河之大汹涌澎湃，像我年青的革命热情，黄河之水呼啸欢呼，像我响亮的诗歌音节。我一定要征服黄河的大浪，要练出一套过人的游水本领，为将来横渡千万条江河，解放全人类而战斗准备技能。

六月二十日

“风雨迎春归，飞雪迎春到。已是悬崖百丈冰，犹有花枝俏。俏也不争春，只把春来报。待到山花烂漫时，她在丛中笑”。

我是共产主义革命行列的年青战士，我是无产阶级革命新文艺的艰苦创业者。我的追求与寻找，我的欢乐与忧虑，我的一切的一切都由这个伟大的革命设想所造就。凡含这个伟大革命理想的我就热爱之，追求之，寻找之，凡不含这个伟大革命理想的我都讨厌之，推出之，抛弃之。我怎么能和那思想极端反动者们，和那冷对伟大毛主席阳光照耀下的祖国和新生活的背叛者们，和那谩骂革命文学战士为撒谎者的混蛋们去同流合污呢？对这样的政治庸人，对这样的糊涂虫，对这样的渺小人物我应该毫不犹豫地、坚决地、果断地、乐观地把它打到九霄云外去，把它的黑手斩断！没有一个共同的革命目标怎能走到一起呢？不交志，不交心，怎能交往呢？我最痛恨这种其实是反动的政治庸人和人生的混水者。

今天我从三盛公乘车来到了杭锦旗，收到毕力格的一封信，也是最后一封信，最暴露肮脏的内心世界之信以后顿时产生了上述心情。我只为伟大的共产主义革命理想而付出自己年青的心血可贵的时间和一切的一切。我不愿为庸俗的爱情去浪费时间，浪费心血，浪费青春。爱情是需要的，但是只能需要为革命理想的有价值的爱情，而不能需要和革命理想毫无共同之处的庸俗的爱情。其实，只要有了为革命理想的精神生活和艰苦幸福的战斗、劳动，人生就有了一切。那些爱情啦，什么啦，没有也毫无留恋之地，照样能革命，照样能为革命理想而生活几十年。

六月二十一日

生活啊，生活，生活就是斗争，为共产主义革命理想而进行的斗争的生活才是真正的生活，才是真正愉快和幸福。

六月二十二日

“一个人做件好事并不难，难的是一辈子做好事，不做坏事。”一个人树立个理想并不难，难的是一辈子为这个理想而战斗，而不忘记这个理想。

六月二十三日

我爱我的祖国，我永远是祖国的儿子。我今日的毛主席阳光照耀下的社会主义的强大的祖国更是可爱。我是祖国的儿子，民族的儿子，当然我也是世界的全体劳苦人民的儿子。但我首先是祖国的儿子。

六月二十四日

古今中外，在一切进步的事业中，革命的事业中最可耻的，最可恨的是那些叛徒。这号人最贪生怕死，最自私，最不得人心。他往往先来个最坚强，最积极的假局面，可是到真正紧要的危险的关头他就一跳过去，人身变妖，出卖自己的事业，把同志当作和敌人见面的礼物。

叛徒有罪，罪该万死！

六月二十五日

“宝贵的生命属于人民”，宝贵的才能属于人民，人生的一切属于人民，而不属于我自己。生命和才能以及人生的一切当然属于我们每一个人自己，但是首先是属于人民，属于革命，属于伟大的理想。

六月二十六日

“四海翻腾云水怒，五州震荡风雷激”。我们这个时代是伟大的时代，战斗的时代，动荡的时代。我这一辈子活着就是为了埋葬帝、修、反，解放人类。所以我一辈子敢当激进派，用我的响亮的诗句和枪杆去战斗。在毛泽东的旗帜下，直到生命的最后一刻。这世界上只要还有一个害人虫，我就不需要什么和平，不愿过什么和平生活。对那些害人虫只能找出一个“打”字。只有打，才能和平。

六月二十七日

“毛主席呀，毛主席，您的话儿记在我们的心坎儿里。”

六月二十八日

现在社会上的牛鬼蛇神常常出笼，他们的孝子贤孙们更是横闯霸冲，这些家儿们扬眉吐气，高兴地太早了。

眼看着这些活生生的事实，眼看着这些群魔鬼戏，一个无产阶级革命战士怎么能和它们去同流合污，怎么能和它们去一碗里吃饭呢？

六月二十九日

“在游泳中学会游泳”。我几年来一直力求学会拍歌谱，但只是从理论上练，而没有在唱中练，所以至今未学好。今日下定决心在唱中练，结果已经基本上会唱了。所以得出个结论，唱中学唱，干中学干。

六月三十日

人民，只有人民，才是创造世界历史的动力。

七月一日

今天是我们伟大的、光荣地、正确地中国共产党成立四十六周年纪念日。这个光辉的节日里，我这党的忠贞儿子，想念着我们伟大的党和她的缔造者和领导者毛泽东，我对党有掏不尽的红心，有说不尽的爱戴。党啊，党，亲爱的党！回顾您的四十六年是多么的不平凡。

是党，把我们困难深渊的祖国和民族从黑暗中解放出来，使人民得到自由和幸福。

是党，把我们一穷二白的祖国日益兴旺强大，屹立于世界的国家和民族之林中！

是党，高举已被修正主义扔掉的红旗，挽救国际共运败溃的危险，领导全世界被压迫人民向帝、修、反宣战！

是党，领导大革命使社会主义永不变色！

没有党，哪里有我们的今天！没有党更哪里会有我们的明天。我们的党是举世无双地、光荣伟大的党。而我们党的一切伟大与光荣全部集中体现在我们党的领袖、伟大的导师毛主席身上。今天只有毛主席，才能代表我们伟大的党。对毛主席的热爱就是对党的热爱；对党的热爱就是对毛主席的热爱。

党啊党，您的年轻的忠贞的儿子——我永远永远战斗在您的红旗下！前进在您的英雄行列中！
我们光荣、正确、伟大的党万岁！

七月二日

“唱支山歌给党听，我把党来比母亲。母亲只生了我的身，党的光辉照我心……”

七月三日

今天从西尼镇乘车来到伊克乌素公社，下午从伊克乌素公社步行来到我旗几个运动群上。来伊克乌素见到一个名叫尼玛的贫苦社员，坐汽车缺路费，我就拿出自己的3元钱帮了他，又请他吃了一顿饭。

钱是人民发的，其中也有这个社员的一滴汗，我用零头解决他的一点儿困难是责无旁贷的应尽的义务。

七月四日

我应该成为能上能下，能文能农，能城能乡的新型人。这就是我既能当干部，也能当社员，既能在城市工作，也能在农村劳动的人。

七月五日

今天从牛群上步行远路60里来到巴音木仁公社运动指挥部所在地。

七月六日

乘胶车从伊克乌素公社出发来到一个老乡家里。

七月七日

近日来到杭锦旗巴彦恩格公社。

我走到哪里哪里就是我的战斗的岗位，亲爱的家庭。不论在什么地方，什么条件下，我都应该安居乐业，严格要求自己，从事我理想的奋战。

七月八日

“印度尼西亚共产党人和革命人民正在从新集结开始战斗”。广播里传出的这个消息真使我乐坏了。印尼呀，印尼，困难深重的印尼，我多少天，多少月想听到你战斗的消息，今天终于听着了。我因此欢欣鼓舞。听吧，听那千万条类似好消息，听吧，听那天涯海角里传出来的阵阵枪声和号角声。我们的印尼战友，缅甸战友——无产阶级弟兄们正在举着毛泽东的暴力革命，武装革命的伟大红旗踏着血迹，迎着解放，战斗！正在向那修、帝、反猛烈进攻。世界黑暗之处，燃起了无数的星星之火！这些星星之火不久的将来就会烧到一起，烧成烈火，烧成燎原烈火，烧遍全球！

让我的欢呼这些星星之火，去加油这些星星之火！因为这是我们国际主义义务。
全人类解放万岁！

七月九日

今天从巴音恩格尔公社乘汽车来到三盛公。

七月十日

“大青山啊，高又高；黄河水啊，长又长，大青山脚，黄河畔，火车飞舞向东进……千里江山如此娇，祖国北方多可爱……”。晚上来到包头，喜逢富荣姐姐，半夜谈得欢谈个不完。我这个人真可以说没有亲属观点啦，这么些年一直没有谈过亲。但我认为位革命不得不这样。

七月十一日

久别亲人喜相逢，姐姐对我如此亲热。我今日更怀念我65年逝世的叔叔。叔叔一生紧跟着共产党，跟着毛主席，进行自我改造，力争做一个有益于革命的人。这一切永远值得我牢记心间，向他学习。我要做到对党鞠躬尽瘁，死而后已。我是个长在红旗下，长在毛主席阳光照耀下的革命青年，这一点不同于叔叔。但是我也有必要向叔叔学习。叔叔啊，安心吧，我永远跟着毛主席走，永远革命啊，革命。

七月十二日

下午从包头出发奔向离别已久的呼和浩特。火车在飞奔，心血在沸腾，歌声在荡漾，山河在欢笑……。呼和浩特啊，呼和浩特，几年来我时时刻刻都在思念您，但我为了把祖国边疆一辽阔的阿拉善建设成您这样的繁荣发展的社会主义新牧区，我宁愿千辛万苦，战斗在那里，歌唱在哪里。

呼和浩特啊，呼和浩特，几年未见，您的发展，您的变化，真是梦中难见，想象不到。经过文化革命的疾风暴雨的吹打，您显得更加鲜红，更加美丽。

七月十三日

见到我少年的同学和朋友，久别的战友和同志额尔德木特古斯心里格外高兴。五年啊，离别已久的五年，这五年里我多少次想念您，盼望您。我们从小一块儿长在伟大毛泽东的红旗下，成人以来远隔千山万水并肩战斗在伟大毛泽东的红旗下，前进在奔向共产主义大道上。抒情在革命行列的前头。这一切都把我们的心紧紧地连在一起，连在一条红线上。我相信我们俩一党的一对忠贞儿子永远站在一条线上，永远战斗在一个行列里，一对红心永向党，一对/////永挥舞，一对风华永献党。

七月十四日

第一次见到我妹妹哈木图，弟弟和平，布赫，小妹娜木，心里痛爱。我有责任尽力帮助把他（她）们培养成人，培养对党、对革命、对人民真正有益的人。正如他们的爸爸——我死去的叔叔把我培养过的一样。（当然这个培养主要的决不是我叔叔，而理所当然的是我们亲爱的党）

七月十六日

内蒙古是伟大的中华人民共和国的不可分隔的一块儿土地，内蒙古蒙古民族是伟大的社会主义中华民族的150个中的一个。乌兰夫这个野心家妄想把内蒙古分隔出去，这家伙对伟大的祖国，对伟大的社会主义蒙古民族的千万革命人民犯下了滔天罪行。

七月十七日

乘车来到四子王旗，一进屋就突然听到我姐夫冯德宝已于今年五月三日死去的噩耗，顿时泪洒乱石，晕头转向……。姐夫啊，我亲爱的姐夫，您这贫农的儿子，您这共产党员，您这衷心耿耿的革命的公安战士为什么死得这样早，而且这样死……姐夫呀，姐夫，我说什么，我想什么，我……。姐夫呀，姐夫，您的四岁孩子和我的姐姐怎么办？……真是晴日雷想呀，天地转……

七月十八日

我现在重温毛主席的词“蝶恋花”

“我失骄杨君失柳，杨柳轻扬直上重霄九。问讯吴刚何所有，吴刚捧出桂花酒……”

七月十九日

我们的同志在困难的时候，要看到成绩，要看到光明，要提高我们的勇气。”

七月二十日

“要奋斗就会有牺牲，死人的事是经常发生的，但是我们想到人民的利益想到大多数人的痛苦，我们为人民而死就是死得其所，就是死得其所。”

七月二十一日

一个人真正遇到不幸的遭遇之时，碰到困难，痛苦之时要坚强些，刚强些。擦干眼泪就能笑呵呵地向前奔跑。狂风吹不倒，暴雨淋不倒，越是有风暴越是有痛苦越是乐观，越是要刚强，越是不忘伟大的共产主义革命理想，越是不忘伟大的

事业。要从大处远处着想，要抛弃小的个人的痛苦。

七月二十二日

我从姐夫死去的血的教训中认识到身体健康对革命来说是多么重要，多么宝贵呀。需要得到健康的身体，只有一个路，那就是为革命锻炼，锻炼，再锻炼。

七月二十三日

越过大青山，越过草原，从四子王旗来到呼和浩特。

七月二十四日

今天找见学校的诗友敖立玛苏荣等人，畅谈今后的无产阶级新文艺以及各自创作道路，异口同声地认为我们这一代青年一文化革命中南征北战的文学青年们必须手举毛主席论文艺，毛主席诗词等小红书，闯出一条最新的革命文艺路。

七月二十五日

我这次来呼和浩特最大的收获是客观地、真实地、实事求是地认识了内蒙前一阶段文化大革命的过程，认识了内蒙古无产阶级革命造反派一呼三司等真正革命组织。在此以前我住在离呼和浩特两千里远的地方，没有亲自来没有亲眼见，亲耳听，而总是从远处偏听偏信，相信了很多骗人的鬼话，从而长期受坏人的蒙蔽，认识至今未提高，思想至今未上纲。那些骗子手门谣言什么：“呼三司杀了工农兵啦”，“打了工农兵啦”，“呼三司帮助地富反坏了”……等等，等等。甚至这些家伙扬言造谣攻击周恩来、康生、谢富治等革命领导人，这些家伙怀疑和攻击中央关于内蒙问题的决定一八条。如此怪事咄咄，真是骗人的鬼话，反动到极点。而当时我半信半疑，思想上对上述问题曾有过怀疑。这样一时期我也不太相信八条，以为八条可能不是毛主席，林副主席的东西，还怀疑和憎恨过呼三司这个真正的用鲜血和生命保卫了毛主席和党中央的革命组织，现在回顾起来，再翻翻六月初的几篇日记有点后悔，有点可笑。当时我太不对了，太对不起毛主席，对不起文化大革命了。不过这样也好，正确思想就是这样通过亲自实践才得来的。这对我来说是一生中难忘的沉痛地教训。

我现在高呼：八条是毛主席和林副主席亲自点头的，是毛泽东思想的。呼三司是真正站在毛主席革命路线的坚强左派。无产者等保守组织是工农兵较多，这是实事。工农兵是无罪的，但他们的这些好人无意中被人利用了，他们本来是为了用鲜血和生命保卫毛主席而战的，但是被坏人利用却走到自己的反面了。

我今日已认识清楚了，这就好了，我从近日起一定要猛醒过来，回到毛主席的革命路线上来，要和那些党内、军内走资本主义道路的当权派划清界限，真正用鲜血和生命保卫毛主席！

七月二十六日

晚上乘 43 次快车离开呼和浩特，奔向三盛公。再见吧，呼和浩特，再见吧，革命理想之摇篮城！为了阿拉善的革命和建设我更加高兴地飞向那里！我可以一辈子战斗在阿拉善的大沙漠里，我要把自己的青春，自己的歌声献给社会主义祖国边疆—阿拉善草原。再见吧，呼和浩特！您时刻在我的心中！

七月二十七日

早晨来到三盛公。

七月二十八日

今日乘汽车从三盛公来到杭锦旗。

七月二十九日

“节约”对我们革命者，建设者来说是多么重要啊！节约可以使祖国富强起来，使人民生活改善起来。勤俭节约这是无产阶级革命战士的特点之一。相反铺张浪费是资产阶级的那一套。资产阶级从自己的寄生虫生活习惯出发，也为了让任何人显出他有钱，到处是大手大脚乱花钱，他们还骂勤俭节约的人是“小气”。我们可要不得这个“大”气。从私人生活上节约这一方面是为了个人，但好好想起来也是为了人民，为了革命啊。节约必须成个习惯，从一分钱一厘钱打算盘才行。最好就是养成个不乱花钱，不大手大脚浪费的习惯就是。

七月三十日

有的人天天打扑克，晚上晚上打扑克，他一有气就是吃喝玩乐。他不读书，不看报，更不去做为人民服务的好事。这种生活多么没意思，多么无聊，多么浪费时间啊！这不能是我们所要的生活方式，应该讨厌之。

七月三十一日

一个人应该追求精神生活的幸福，不应该追求物质生活的幸福。物资生活上穷到什么地步也没关系，只要在精神上不低落，他还是世界上最愉快最幸福的人。而精神生活的幸福完全在于为伟大的革命理想的实现所进行的斗争之中。

八月一日

今天是我们举世无双，天下无敌的伟大的中国人民解放军的建军节，是我们全中国革命人民的光辉节日之一。

我们从帝国主义者，国民党反动派的黑暗统治下得到解放，靠的是什么？我们十几年来一直顶得住帝国主义、反动派和修正主义的威胁和挑衅，顶天立地的屹立在东方，靠的是什么？是解放军，是枪杆子。没有解放军，没有枪杆子，便没有我们的一切。

解放军是我们中国最先进、最党性、最辛苦的战斗的行列。解放军战士是全国革命人民最可爱的人。我们应向他们学习，向他们致敬，向他们靠拢，向他们信服。我们伟大的军队万岁！（今天从锡尼镇来到伊克乌素公社）。

八月二日

关心国家大事，关心文化革命的大事，这是今天我们每一个革命的中国公民的生活的“常饭”。我们应该以此为义务，以此为光荣。目前在文化革命的大风浪的日子里渡过我们怎样不关心文化革命呢，我们应该把它当做生活的第一件大事去热切关注，热烈讨论。在文化革命中当袖手旁观者而不关心，不谈论，不分析，不参加宁愿只搞其他任何个人有趣的业余，这是落后于时代的政治庸人，是极为反动的思想。

我要第一个关心文化革命的大事！（今天从伊克乌素公社来到该社五大队学校）

八月三日

现在不论是男女老幼，是干部是社员时时处处都能说出“观点”，他们互相探问“观点”，摆明“观点”。有些人却讨厌这些，说：“什么观点不观点的，我不管你三七二十一。”极为冷淡。

我认为人们爱谈观点，特别是那些一字不识的普通老百姓都能爱谈观点，这是我们时代飞跃前进的特征，是历史发展的象征。我们应该满腔热情地去欢呼，去赞赏。这说明在我们伟大的战斗的祖国每个革命公民都在关心国家大事，都在追求革命，都在响应着毛主席的战斗召唤。所以谁要讨厌这些，抵触这些，他就不是个合乎时代之潮流，合乎人群之要求的青年革命者！这种人不小心的，发表下去令对抗人革命，是危险的。

让那些普通的人民去谈论观点吧，去关心国家大事吧。人民群众的进步和提高万岁（今天从伊社五队来到我旗巴村运动指挥部）！

八月四日

在今日的中国，在今日的世界，我除了第一个崇拜和热爱毛主席。以外，第二个羡慕和尊敬的就是林彪同志。林彪同志真是我们所爱戴，我们所学习的伟大人物。他是毛主席最亲密的战友，是毛主席的头号拥护者，革命者，保家者，跟随者，他是世界共产主义革命的伟大旗手，是世界无产阶级的常胜将军。正如斯大林是列宁的继承者一样他将来是毛主席的最可靠的继承人，他比斯大林更伟大，更高明。他将来是率领中国和世界的革命的“天兵天将”，去进行埋葬帝国主义的实践的指挥者。这伟大的业绩一定会由他来完成。林彪同志不但是一个世界第一流的最成功的军事家，而且是世界第一流的思想家，政治家。他最好地学习了毛泽东思想，发展了创造了毛泽东思想。他掌握辩证方法是高人一等的。特别是林彪同志是真正的共产主义者，是无私的共产主义者。他的人格最伟大。

我们要爱戴林副主席，要学习林副主席！

毛主席的亲密战友林彪同志和他的精神万岁！

（原文是划掉的。）

八月五日

中央电台第一次公开广播毛主席在去年八月五日写出的大字报“炮打司令部”。毛主席的这张大字报是号召向中国的赫鲁晓夫—刘白头发火的动员令。是世界前所未有的伟大的无产阶级文化革命的一声炮响，正如十月革命“阿迫尔”炮声一样有重大意义。我听后感为感动。我们永远跟着毛主席（38），毛主席怎么指的我们就怎么冲，毛主席指到哪里，我们就战斗到哪里。

八月六日

草原万里好风光，东风吹尽绿浪浪，牛羊肥吆，马儿壮，牧歌欢唱响彻天……
文化革命的鄂尔多斯草原啊，令人可爱。

八月七日

“四海翻腾云水怒，五洲震荡风雷激”。我们这个时代是战斗的时代，我们这个世界是战斗的世界。伟大的毛泽东思想使我们这个时代，使我们这个世界更加战斗化。

“枪杆子里面出政权”。在今后的几十年中世界各国被压迫人民，各种族中的无产者和一切饥寒交迫的奴隶将高举红旗，手握枪杆子向帝、修、反开战，和这些害人虫进行最后的斗争，进行决战，将它们埋葬在历史的垃圾堆里，使自己重见阳光，得到人类解放。这是一个多么伟大的时代啊！

看吧，现在的世界已将进入伟大毛泽东的时代，进入全面武装革命的伟大时代！印尼人民，缅甸人民，印度人民，泰国人民，以及许许多多的国家的人民已经打响了人民战争的炮，这些炮声似乎时刻响在我们耳边，响在我们的胸中。欢呼吧，庆祝吧，四海即将沸腾，五洲即将起来！世界三十亿人民即将全部都拿起枪杆子，血战到底！世界的黑暗的夜肯定不长了，太阳就要普照大地，三十亿人民就要得到解放！

枪杆子啊，只有枪杆子才能出人民的政权，只有枪杆子才能解放世界！除了枪杆子，再没有更重要的东西！什么“议会道路”什么“和平过渡”，都是骗人的鬼话，这些修正主义、机会主义的东西，统统给我见鬼去吧！怕拿起枪杆子的人们就是怕革命！要革命非拿起枪杆子不可。

我是生活在战斗时代的革命人，是战斗在毛泽东的红旗下的战士，我要一辈子当激进派，一辈子相信和执行武装革命的道路。我的笔就是枪杆子，瞄准帝、反、修和一切害人虫狠狠地打，我的诗句就是子弹，要射向帝修反和一切害人虫！我永远提倡战斗的诗篇，斗争的火花，我要敲起武装革命的战鼓，吹号召唤世界被压迫人民。同时更要随时准备响应毛主席召唤，奔赴祖国和世界各地的战斗火线，亲自参加埋葬帝修反的战斗！

枪杆子精神万岁！武装革命志愿万万岁！

（今天来到杭锦旗巴音乌素公社）

八月八日

今天从杭锦旗巴音乌素公社出发来到巴盟建设兵团的运动地带。

毛主席的战士最听党的话，哪里需要到哪里去，走到哪里那里就是我的家。革命人走遍天涯海角，到处是阶级兄弟，天南海北是一家人。一人有困难万人来协助，这就是我们社会主义时代的高贵之处！

八月九日

今天来到巴音乌素公社三大队。对我们的慰问，该队革命群众和革命干部热情接待，使我们极为感动。对我们联系草场这个工作他们热情帮助。“我们都是来自五湖四海……”

八月十日

自从文化革命开始以来，这个伟大的运动向我文艺创作大业的理想敲响了警钟。使我觉醒真正走毛泽东的文艺思想道路。究竟怎样才能真正体现伟大的毛泽东文艺思想，怎样创造出无产阶级自己的光辉灿烂的新文艺？怎样才能为革命闯出一条新路，为人民立新功呢？在这里我应尽的义务是什么？这一系列问题时刻在我这革命文学青年的胸中风起云涌。我左思右想，已有了初步的设想，也就是理想的具体计划。将来要成立毛泽东文艺思想的、革命的、新型的“文艺社”。

这样的文艺社可以小范围内组织，一些革命文艺爱好者，同心协力去为革命而写作，可以锻炼发表作品，真正破“私”，丢掉个人的成名成家，可以在屡次革命中以一个战斗队伍的姿态投入战斗，可以随时向错误的作品和一切错误思想开火，可以在紧要关头集体地与敌人搏斗，整个集体地为公共利益就义牺牲，一句话这样地文艺社会更好的用鲜血和生命忠于保卫毛主席及其他的伟大事业！会更好地体现毛泽东文艺思想。会更高地举起毛泽东文艺思想的红旗，使其永远鲜红，高高飘扬。

这样的文艺社是常设的革命群众组织，是在党的领导下进行战斗的集体。

这样的“文艺社”好得很，会很好的解决革命文艺之组织形式的路，他的生命力比起现在的什么“作家协会”，什么“文联”都会好。

这样的文艺社一定要成立，一定能够成立。我决心达到这样革命理想，实现这个大业。为此从现在开始为它的早日实现一马当前，打头阵，做好准备工作。（今天来到澳伦布拉格公社运动指挥部）

八月十一日

早晨早早起来，在收音机的“广播体操”节目的乐声中做操锻炼身体，这多么愉快而有意义呀！天天起得迟，特别是比群众起得迟，象大爷一样躺到八点钟，这真是要不得的坏习惯。这样既浪费了时间，有迫害了身体，作风上又造成坏影响。

我应该爱护自己的身体，把它真正当成革命的高贵财富来对待，要加强锻炼。不论到什么地步，在大城市的旅店里，在机关的院子里，在牧区的沙滩里都要坚持锻炼身体。不论在什么时候，在白雪飘飘的冬日，在大风弥漫的春日，在暴雨下大的夏日，都要坚持锻炼身体。天天早起，早早锻炼身体。

坚持，坚持，坚持到数十年，坚持到生命的最后期。只有这样才能更好地为革命工作。

八月十二日

我在辽阔的阿拉善和美丽的鄂尔多斯等地方工作，特别是下乡工作，时刻都在群众中，在火热的文化革命斗争中生活，时刻都在人民群众的丰富生动的语言海洋中生活。这对我这样的革命文学青年来说是多么好的机会呀，这里我可以学习生活，劳动，斗争，可以学习人民群众的语言，可以得到革命文学作品的创作源泉。但是过去我未能充分利用这好机会，学到的、记住的东西太少了。今后我应该充分利用这个机会，好好学习，多多记单词。只有这样才能在生活中学习生活，反映生活。

八月十三日

今天到赛乌素公社和该社一部人转到我行走的场群上。

八月十四日

“练兵千日，用兵一日”。一个人的革命意识的锻炼，立场的加强是长期的，经常不断地。但是总有那么一时期，那么一时，甚至那么一刹那间，经历了一场严重的考验。能经得起这个考验，就说明你的“练兵千日”有了成果，否则就是白白的。

文化革命以前我们曾多少次，多少时间里大谈“立场”，大谈那些豪言壮语呀，大谈革命理想呀。但是一碰到文化革命战斗的考验就经不起，不是站错就是犯错误，迷失方向。未经得起考验的总是较多。所以在紧要关头，在关键时刻怎样发挥其威力这是很重要的。我认为在革命的关键时刻，考虑时刻一个人必须要有独立思考的战略战术之头脑，必须要有独立沉着，果断的行动，必须充分发挥主观能动性，而不能有奴隶主义两面三刀手法，特别是不能有丝毫的从“私”字出发的患得患失的畏恐之心。要有马列主义毛泽东思想的独立思考和分折，一切从实际出发，自己认为哪个是真理，哪个是革命的就坚定地去决定自己的行动。只有这样才能经得起考验，才能站稳立场。

八月十五日

文化革命开始以来我天天参加惊心动魄地阶级斗争，天天摆观点，争道理，生活有些紧张，结果好像忘掉了发扬雷锋同志精神，发挥了做好事为人民服务这日常必由义务，这是很不对的。我们在大风大浪中锻炼，自己为的是什么，为的是革命，为的是把自己培养成像雷锋同志那样的共产主义战士。参加文化革命和日常做为为人民服务之好事。这不是对立的，

而是同样重要的，所以我们在文化革命中，在今后的漫长岁月里时刻不能忘记雷锋精神。应该时刻发扬雷锋精神，不管斗争多么激烈，时间多么紧迫，心情多么激动，我们都应该适当时间里去从事为人民服务之好事。

八月十六日

一天的时间应当怎样渡过？怎样才能有意义？我每天应该学习毛主席著作，每天应该做为为人民服务的好事。每天应该注意思想革命化，生活革命化，每天应该努力完成党所交给的工作任务，每天应该为革命理想而艰苦从事文学活动，每天应该锻炼身体。这样渡过的一天才是有意义，才是幸福。（今天从敖伦布鲁格运动指挥部单人出发，越过数十里沙漠来到巴音乌素公社三大队）

八月十七日

人无论做什么，特别是一件从来没有做过的事，开始以前总有些患得患失，总有些畏恐心情，但是做起来，不论有多大困难也就不觉得害怕了。这过程里有时还经历预先从来估计不到的风险。当冲过这个风险之后，回头一看才擦一把汗。类似事情遇到的确实不少。例如，今天和昨天我一个人越过了几十里大沙子和几十里沙滩，启程以前曾有过唯恐心情。但实际走起来也没什么了不起。

所以正如毛主席教导的那样，世界上一些大的东西并不可怕。我们在革命中，前进中对待任何新的，大的对象不应用任何畏惧，应以大无畏的精神勇敢地杀过去，冲过去。（今天来到巴音乌素公社运动指挥部）

八月十八日

“长江，别人都说很大，其实，大并不可怕。美帝国主义不是很大吗，我们挤了他一下也没啥。所以，世界上一些大的东西并不可怕。”

八月十九日

真理这个东西也有阶级性，一个阶级有一个阶级的真理，这个真理对这个阶级来说就是绝对的。世界上根本没有超阶级的真理，一个东西一件事情这个阶级认为是真理，那个阶级定不会认为是真理，两个根本对立的阶级都认为是对，这样的真理是不存在的。

对我来说什么是真理，我认为马列主义毛泽东思想本来就是真理，就是绝对的真理。凡是符合马列主义毛泽东思想，凡是符合历史发展规律的，符合共产主义未来的就是真理，就是绝对的真理。

马列主义毛泽东思想的真理永远存在，共产主义的真理永远存在！我要永远追求马列主义毛泽东思想的真理，为它而战斗，为它而献出一切！（今天来到伊克乌素公社）

八月二十日

“抬头望见北斗星，心中想念毛泽东……”。这个怀念的音调时刻在我的胸中荡漾。是啊，我日日夜夜，每处每地都在想念毛主席。

当前全国正在万炮齐轰党内最大的走资本主义道路当权派刘少奇为首的资产阶级司令部。在这个决战中，在文化革命中，我誓死跟着毛主席和他的司令部，无论冒多大的风险，我一定要赤胆忠心，稳步紧跟。如果在这决战时刻会发生意外的事情，会出现我们暂时被敌人打的局面的话，我宣誓：死也跟着毛主席！为毛主席，献出我的青春的生命，也不在乎！反正我这一生就是要跟毛主席。毛主席怎么闯，我就怎么冲上去，需要重新上井冈山，那我也跟着上，需要重走两万五千里长征，那我也跟着走。毛主席呀，这就是我对您的誓言！

“抬头望见北斗星，心中想念毛泽东……”

八月二十一日

坐牢、绝食、被捕、被殴打这一切以往在人们的认识中好像是个了不得似的，好像很使人可怕似的。其实，这一切也并不可怕，没什么了不起的。在文化革命中有多少真正革命派遭受党内走资本主义道路当权派的迫害，他们曾被捕过，曾坐牢过，曾挨打过，但是他们在敌人的暴力面前无所畏惧，坚持战斗，真正用鲜血和生命保卫了毛主席和毛主席的革命路线。所以只要是为了革命，我们无论现在和将来随时都准备坐坐牢，贷贷绳子。这是值得的。只要为了革命，坐坐牢，贷贷绳子也没什么了不起的，更没什么可怕的。（几天来到杭锦旗西尼镇）

八月二十二日

在刘白头，邓矮子的疯狂反扑和阴谋策划下，党内军内一小撮走资本主义道路当权派进行最后挣扎，正在挑起全国性的大规模武斗，文化革命已经进入空前激烈的阶段。在这种情况下一切真正保卫毛主席的革命派不得不采取“文攻武卫”的战术。

敌人不管怎样疯狂，在全国不管出现何等激烈的武斗也好，最后胜利一定要属于我们以毛主席为代表的革命派。我有决心在任何艰难困苦场合，甚至杀头也好，我一定要跟着毛主席！坚决打倒刘邓，誓死与刘邓血战到底，真正做到用鲜血和生命保卫毛主席和他的伟大事业！（今天来到三盛公）

八月二十三日

海可枯，石可烂，忠于毛主席的红心永不变！头可断血可流，毛泽东思想不可丢！（今天来到杭锦旗鄂里斯太公社）

八月二十四日

从鄂里斯太公社乘车来到三盛公。

八月二十五日

工农兵啊，伟大的时代之主人，革命之砥柱。工农兵的心永远是鲜红的，工农兵永远是毛主席的最热爱者，最拥护者，最紧跟者；无论过去现在和将来只有工农兵，才是毛主席最可爱的革命力量。

工农兵啊，只有工农兵才能保卫毛主席。其它任何剥削阶级，或是中派阶级，他们再有甜言蜜语也罢，他们终究还是他们，他们终究还是另一个心眼，他们终究还是毛主席的死敌，我们革命人民的死敌！他们今天的所谓“站到毛主席的路线上”，是口是心非的，是别有用心。

八月二十六日

毛主席呀，毛主席，工农兵革命人民是您真正的保卫者。他们在紧急关头会挺身而出用鲜血和生命保您您的伟大事业。如果是必要的话，工农兵革命人民会拿起枪杆子去保护您，会重新上井冈山保护您。

毛主席呀，毛主席，我一个普通的革命青年，也是您的真正保卫者。我永远和伟大的工农兵一起，去保卫您和您的伟大事业。

打倒刘少奇！保卫毛主席！誓与刘少奇血战到底，誓死跟着毛主席！誓与牛鬼蛇神和一切反动派血战到底！誓与工农兵、革命人民在一起！

八月二十七日

当前文化革命是件伟大的业绩，我们应该像毛主席那样有巨大魅力和大无畏的精神。我们不能怕出“乱子”，不能担心“收不了场”，其实现在出点乱子没什么，今天出点小乱子，正是为了将来不出大乱子，如果今天怕出点小乱子而不搞，那么将来出现大乱子的时候那才收不了场。要革命就斗争，斗争就有牺牲，就付出代价，死几个人是难免的，建设受到些损失是难免的。但今天怕死几个人而不搞，那么将来真正来个乱子的时候定会有亿万人头落地，江山被血洗，人民吃二遍苦。所以我们要有信心，有决心投入文化革命，将文化革命进行到底！

八月二十八日

晚上看了吹捧党内最大的走资本主义道路当权派刘白毛的反动影片“燎原”，心里极为愤慨。这影片竟然把刘白毛吹捧为中国人民的救世主，把安源煤矿革命史上的一切功劳归于刘白毛，一笔勾销毛主席的伟大领导和功绩，并放了和平议会道路等诸多反动毒素，反动到极点。这电影和“清宫秘史”一样是大毒草。我们必须彻底批判这个反动影片，要彻底揭露刘白毛，是他原形毕露，遗臭万年！

打倒刘白毛！血战刘白毛！

八月二十九日

当前我国文化大革命的形势还是大好的，有的人看到一点“乱”就担心起来，害怕战斗是错误的。我们要相信毛主席的伟

大战略背景，同时要相信绝大多数的人，特别是工农兵还是忠于毛主席，拥护林副主席，并用鲜血和生命保卫的。刘邓虽然还在疯狂反扑，但他们毕竟是一小撮，必竟是人心向北的革命公敌，毕竟是纸老虎。

我们必须有信心，有决心将文化革命进行到底，取得最后胜利。

八月三十日

我们跟随着毛主席，在文化革命的激战中正在胜利地前进着。“我们的目的一定胜利，我们的目的一定能够胜利”。

八月三十一日

毛主席呀，伟大的毛主席，您招手吧，您挥旗吧，您闯吧！您向哪里招手我们就奔向哪里，您在哪里挥旗，我们就在哪里战斗，您闯向哪里，我们就冲向哪里。对您的部署，对您的指挥，对您的号令，我们一丝不丢，一技不差地去执行，去响应！

九月一日

全世界现在处于从新革命的状态，处于大分化，大动荡的状态。赫鲁晓夫修了，金日成修了，泽登巴尔修了，卡斯特罗修了，他们都违背了历史发展的规律，他们都背叛了马克思主义，他们都忘记了世界无产阶级和被压迫人民，他们都成了共产主义革命的绊脚石。现在只有毛主席的方向才对，毛主席的方向符合历史发展的规律，它代表世界人民的利益，它代表真理。毛主席，顶天立地地站了出来，挽救了世界革命，一马当先开拓着革命的道路，走着马、列、斯所没有走完的路。毛主席促进了历史的发展。

在我们中国，刘少奇修了，邓小平修了，乌兰夫修了，他们同赫鲁晓夫都是一丘之貉，一样货色。当前开展的文化革命也可以说是重新革命的状态。毛主席英明果断地采取了行动，发动人民，迎击刘少奇等人的修正主义进攻，又一次挽救了中国革命，并为世界革命作出新榜样。

毛主席的方向是中国革命的方向，世界革命的方向。所以中国人民、世界革命人民必然要跟着毛主席走。所以我们必然用鲜血和生命保卫毛主席。所以我必然要誓死跟着毛主席。

九月二日

苏修可恨，南修可恨，蒙修可恨，世界上一切修正主义工贼都可恨。这一群魔鬼，这一群祸世殃民的害人虫，这一群可耻的叛徒和工贼是世界革命人民的死敌。他们总有一天被历史判处有罪，总有一天被世界革命人民判决。他们的命运不会比帝反好，而且比帝反还坏！

我们要仇恨修正主义，抵制修正主义，血战修正主义，埋葬修正主义！

九月三日

有一部分所谓的革命派，特别是一小撮坏家伙他们故意挑起武斗。这是和伟大的毛主席的“要文斗，不要武斗”的文化革命思想是先对抗的，是绝对不允许的。

真正的革命派，真正的造反派，决不会挑动武斗，绝不会违背主席多次的教导。武斗这是个逆风，是歪风，坚决要不得。因为我们的文化革命是无产阶级专政下的大革命，用文斗完全可以解决问题。坚决按着十六条办事。要文斗不要武斗！提倡文斗，反对武斗！

九月四日

今天从三盛公来到杭锦旗的路上所看到的情景真使人感到不安，真使人产生反感：一群群手持钢材，木棒，骑马的人杀气腾腾地拦车而来，他们拉人，打人，他们挖公路……。说什么自己是“造反派”要查“老保”。真可耻，天下哪里还有这样的革命派，哪里还有这样的革命行动。这些人不按十六条办事，不按毛主席指示办事，而是故意挑动大规模武斗，破坏交通，破坏生产，兴风作浪。他们这些不算是“文攻武斗”，他们这纯粹是“武攻乱打”。这种歪风坚决不要！要不得，要不得！这样的所谓的造反派也实在要不得！要不得！要不得！

九月五日

我认为文化革命就是文斗，绝不能要武斗。因为这是文化革命，这里有“文”字，这是无产阶级专政下进行的革命。有的人硬要挑动武斗，这是罪祸。特别注意的是挑动武斗的竟是那一小撮走资派，坏家伙。他们挑动起来以后就幕后操纵，自己则安全的坐山观虎斗。而实实在在在参加斗争，流血牺牲的都是那些革命群众。每一个革命群众都是为了保卫毛主席，都是为了打倒刘少奇，他们有一个革命的共同目标，而互相毒打，残杀这是多么不值得啊！多么令人不安啊！

所以我认为现在的武斗——革命群众之间的武斗是灾难，是不必要的牺牲。我坚决不参加这样的武斗，坚决不去当打手。我这并不是“怕死”，并不是“害怕文化革命”，并不是“不关心国家大事”。我认为把一个心红胆赤地有着共同目标的阶级兄弟打伤或打死这是犯罪，都是为了保卫毛主席而不好好文斗，不辨明是非而糊里糊涂地去死这是比鸿毛还要轻的，不值得的，没价值的死去！假如到越南战场上打美国，假如真有必要和刘少奇开枪打仗，那我去，无所畏惧地去参加战斗，要“武斗”，因此这是值得的，必要的。

枪口和木棒还是对准美帝、苏修、蒋介石、对准反革命们吧！而不要对准自己的阶级兄弟！对自己的同志只能劝阻，只能文斗，并且对走资派的也只能文斗。因为这是毛主席的号召，是文化革命的战法！

九月六日

杭锦旗西尼镇发生严重武斗，白色恐怖笼罩着这个草原城镇。两派都互相害怕，互相“警惕”，谁也不敢出来，都在各自的“安全洞”里坐着。我这外地来的毫无观点，派别的人也不安，随时都由无辜地挨打，甚至还被误杀的危险！……

对这个不应有的，不必要的戒备状态，我很难过，很讨厌。这些人已经把毛主席的“要文斗，不要武斗”的命令忘掉了！已经违背了主席的教导，已经在危险的邪路上奔跑着。

这些武斗来之那里？我说这就是来那一小撮走资派，坏家伙，总跟是罪该万死的刘少奇！拳头打向刘少奇吧，木棒大向刘少奇吧！打倒刘少奇！停止群众之间的武斗！按中央文革的号召停止武斗吧！刹住武斗歪风！保证文化革命按规定进行！

九月七日

从杭锦旗乘上汽车，路过层层武斗关哨，来到我们的“解放区”巴盟三盛公。“解放区”真给人一种“解放区”的感觉，这里没有无理的武斗，没有互相毒打，这里每一个革命群众都按主席的教导抓革命，促生产，搞大批判，都在造反派的周围团结对敌。我们这样的搞文化革命，不应该热心于“战斗”。

九月八日

巴盟局势正在急剧变化！原造反派组织东联今天已经分裂，停止贴出造反宣言。巴盟的文化革命还要出现大反复。反复啊，反复，革命的大反复，多次的反复，没有这个反复也不行，只有反复才能更好的按照毛主席的指出的路线乘风破浪地前进。究竟谁是真正的革命派，最最革命派，只有在大风大浪中考验，在反复中考验。我必须要有充分的思想准备，经得住考验，成为真正的毛主席革命路线的捍卫者。

九月九日

革命是件不容易的事情。文化革命是两个阶级，两条道路的大决战，是狂风巨浪，而不是和风平浪。所以我们对垂死的资产阶级，对一小撮走资派不能有丝毫的不切合实际的幻想，我们不能太天真烂漫了。我们希望坚持文斗，但是敌人会用文武两手的，当他文斗手法不行时，就用武斗。所以我们也只能有两手准备。文攻武守是完全有必要的。当然我们的“武”一定要对准走资派，对准敌人，而不能对准自己的阶级兄弟，对准革命群众互相之间。要相信群众的绝大多数是忠于毛主席的，是与刘少奇为敌的。但还必须看到总有一小部分是刘少奇的手足，是刘少奇的势力，还会蒙蔽一些人的。我们不要太天真烂漫，不要想得太简单，太容易。

革命是件不容易的事情，我们必须随时准备用鲜血和生命（保卫）毛主席和他的革命路线。

九月十日

文化革命斗争极为错综复杂，并越深入越错综复杂。现在我们个人，好些东西都理解不了，分不清是东是西。但是我们要相信毛主席是一清二楚的，毛主席是心中有数的，毛主席现在只有一套针对性的战略战术的，会有全盘计划，全局指挥方案的。我们要绝对相信毛主席，毛主席教我们怎么做就怎么做，暂时理解不了也得去做。只有这样才能够跟上毛主席，

才能走正确的道路。不然只是因为个人理解不了，而犹豫不决，迟迟不动，那就晚了，再行动以后去做就来不及了，就会犯错误，迷失方向了。

让我们紧跟毛主席，碰暗礁，冲风浪，胜利前进吧！

九月十一日

在当前我们必须理解毛主席的战略步骤，无条件地听从毛主席的命令。自己暂时理解不了，不要胡思乱想，不要患得患失。这样根本会迷失方向，会走到自己的反面。

九月十二日

“抬头望见北斗星，心中想念毛泽东……”迷失时想念有方向，困难时想念有决心。毛主席呀，毛主席，您教导我们永不忘阶级斗争。革命无罪造反有理，彻底埋葬旧世界……。

九月十三日

早晨乘车来到银川市。

银川市显出一片大好形势，造反派已经扬眉吐气。毛主席的革命路线已经在这一块儿地区取得了胜利。

九月十四日

从银川乘车来到了离别已久的巴彦浩特。巴彦浩特充满着紧张的气氛，正显出激战前夜的状态。阿左旗文化革命还要反复，不反复也不行。造反派必须要得到彻底解放，必须要真正掌权，必须要真正握大方向。

九月十五日

对资产阶级反动路线我应该是一个不可屈服的造反者，不能有奴隶主义，我深知我自己应该改造自己，背叛剥削阶级应该时时刻刻不断努力。但我对反动路线不能采取“老实”的态度。我应该再来造反动路线的反，要执行和捍卫毛主席的革命路线。

九月十六日

过去我在文化革命中对家庭出身抱怨太大，只认识改造自己的必要性，而没有认识反对反动路线的必要性，所以抱负有重，不敢造反，消极待命，甚至等待命运的来临。这样接受了反动路线的害，又站到反动路线上，辜负了伟大毛主席的革命期望。这是个沉痛的教训。现在我应该奋起造反动路线的反，造刘邓陶反动路线的反，再积极投入激烈的文化革命斗争，在大风大浪中改造自己，彻底背叛剥削阶级家庭，真正用鲜血和生命保卫毛主席的革命路线。

九月十七日

我再三的提醒自己：处理自己的婚姻问题，“搞恋爱”中不要过多的浪费可贵的时间，应该把自己的绝大部分时间放在参加革命，搞好工作，搞好业余学习上。婚姻上可以占时间，但只能占少，不能占多，不能过分考虑这个问题而去浪费时间，分散精力，影响工作和学习。如果这样做，那是对崇高革命理想和人生责任的犯罪。

九月十八日

我不能容忍刘邓的反动路线，不能容忍党内走资本主义路线的当权派的压迫。要起来造反动路线的反，造走资派的反。

九月十九日

今天我贴出声明。我在声明中表示要在彻底粉碎阿左旗，3.14反革命夺权的流毒，粉碎3.14复辟斗争中将回马开枪，将功补过。要在迎风招展的“东总”旗帜下，用鲜血和生命保卫毛主席的革命路线而战斗到底。

九月二十日

一个革命者的每一个行动都必须是光明磊落的，必须毫无隐讳自己的政治观点，无论任何事情都要旗帜鲜明，态度明朗，错就错，不能怕错。不要当投机分子，不要当机会主义，不要当两面派，那是最不好的。革命吗，就得果断，原则地去干，对就坚持，错就改正，同时错了必须通过实践去改，不要在未认识错在那里，真正错了没有以前随意改变。当墙斗草，随风摆不是革命的态度。

九月二十一日

阿左旗原“东方红革命造反总部”昨天已经发表声明恢复了。东总从元月份成立以来革命大方向始终正确，完全正确。只有东总才能代表我们的革命大方向。

我原来是东方红战士，又因受反动路线的白色恐怖被压出去，退出去的，同时一时有过顽固“老保”观点。现在我觉醒了，我要做一个光荣的东总战士。今天我一个人贴出大幅标语坚决支持东总。我已经是全人类第一个公开化的东总观点者，我相信这个星星之火一定会燎原，因为我相信她是革命的。

我懂得革命是件不容易的事情，我随时准备付出个人的极大的代价。用鲜血和生命保卫毛主席的革命路线。

九月二十二日

干革命不能丝毫考虑个人，患得患失的畏恐心理。革命者必须是无所畏惧的，大无畏的，当对准正确目标，看准正确方向之后毫不动摇地走下去。

九月二十三日

一个革命者的一生需要经历多少个惊心动魄的场面啊！这里很可能有在火线上冲锋的时候，有和敌人面对舌战的时候，有坐敌人监狱的时候，甚至肯能会有英勇就义的场面……。总之一个革命者的一生不能是一直一样，不能是平平静静；革命者的一生要经历斗争的，困难的，危险的，所以不能有丝毫患得患失之心。这样不会经理这些场面的。革命者是无所畏惧的。

九月二十四日

生活必须要斗争，斗争是幸福的。

九月二十五日

诗歌和其他文学作品是革命的战鼓和号角，是现实斗争的武器。诗歌和文学作品必须为现实斗争服务，要有强烈的现实性和战斗性，要旗帜鲜明，态度明朗。

九月二十六日

为革命而学习，为革命而读书。书要多读，读过了也要用。只有这样才能得到知识，才能更好的为革命出力。读书是非常重要的。

九月二十七日

无论什么事情，我必须从大处着想，远处着想。只要对革命有利，哪怕对自己不利也应该拥护。不要老有“私”字，总是“我”“我”“我”。只要是对远大理想有利，哪怕对眼前有害也应该拥护。不要老是鼠目寸光。

九月二十八日

今天我们“东方红总部”观点者到一中听了赴呼汇报代表的报告。我们“东总”是真正的造反派，大方向始终是正确的。我们应该坚持原则，捍卫毛主席的革命路线，将革命进行到底。

九月二十九日

看了批判影片“不夜城”怒不可遏。这影片太反动，太明目张胆。影片是刘少奇“剥削有功”反动观点的翻版，是有着颂扬吃人的资本家的东西。真反动透顶。这样的影片不批判不行，这样的毒草不挖不行。

九月三十日

跟着毛主席就是没错，跟着毛主席就能胜利。前一时期各地出现武斗，有些乱，当时有的人就害怕起来。可是没过多久，现在你看这种现象基本不是停止了吗。毛主席一声号令，举国总动，搞大联合，团结对敌。毛主席总是这样，每当紧急的危险关头他无所畏惧地放手大干，转移局势，取得胜利。这一点我们应向他大领袖学习，更重要的是不管如何要跟着毛主席。

十月一日

今天是我们伟大社会主义祖国成立十八周年。我的祖国啊，亲爱的社会主义祖国，顶天立地，屹立在世界的东方，成了世界共产主义革命的不可摧毁的阵地。短短地十八年里建设成了繁荣富强的，扬眉吐气的社会主义强国。

当前史无前例的文化革命更是空前大好形势，胜利在望。通过文化革命，我们祖国更加巩固永不变色，更加跃进繁荣，这样大大加快世界革命的进程，对人类解放做出不可估量的贡献。

成为这样一个伟大国家的公民和儿子，我们是多么幸福，多么骄傲。想起我们的祖国产生无穷无尽的力量。我要为社会主义祖国的革命和建设献出自己的一切。

我们伟大的可爱的祖国万岁。

十月二日

昨天我带了东方红联络总部的袖章，总算成了光荣的东总战士。我认为东总是最革命的，我相信东总会胜利的，会捍卫毛主席革命路线的。

在迎风招展的东总旗帜下，为了捍卫毛主席的革命路线战斗到底！

十月三日

事情总是对立统一。例如：反动路线这东西，你越是屈服，它越压制你，你如果敢于造它的反，它也就被你粉碎了。对走资派也是这样，你要是起来反他，它才不压迫你了。所以造反就是有理。革命就是无罪。

十月四日

革命战士不能老想打主动战去争取胜利，而应该有时准备大被动战，变被动为主动去争取胜利。哪里有那么主动阿，如果老是主动，一帆风顺，这革命还革什么呢。要准备打被动战，准备走曲折的路。当然真理在革命一边，所以从长远来看，从战略上来看我们是永远主动的。但在战术上，每个具体问题上有时可能是被动，甚至会遇到多次被动局面，问题是怎样把被动变为主动去争取胜利。

十月五日

一个人如果有短浅的鼠目寸光，老考虑个人得失，总是私心杂念，患得患失，那么他永远也不能一心一意去革命。

革命岂能做井蛙，怎能从个人得失出发。革命者必须从远处大处着想。只要对革命有需要，必须舍弃个人得失，果断地去干。错了不要紧，总怕犯错误，那一辈子也革不了命。

十月六日

今天读完了“林彪同志语录”（学生自编的刻印本），感受很深。我从内心里敬佩和爱戴林副主席。他是毛主席的最亲密战友，他也是中国二十世纪的天才，是世界革命的天才。是我们的林副主席，数十年如一日，紧跟毛主席，保卫毛主席。是我们的林副主席在决定社会主义中国命运的紧急关头挺身而出保卫了毛主席，打败了刘少奇这一群魔鬼。……

我敬佩和爱戴林副主席，我迷信和仿效林副主席的思想。林副主席的思想就是毛泽东思想的发展，我要抽出一定时间去学习和研究林副主席的思想。永远跟在他的后面忠于毛主席和毛主席的伟大事业。

十月七日

文化革命以来我对文学劳动每日三省，考虑极多。文学，革命的文学，他的生命力在那里？灵魂在哪里？诀窍在哪里？

我认为文学的灵魂，作品的灵魂，主要在于它的思想性。一个革命文学劳动者，如果没有革命的思想体系，如果没有马列主义毛泽东思想的体系，他再有才能，再下艰苦功夫，还是不成功，还是做不出贡献。

所以一个文学劳动者，不能首先追求“技巧”，而应该首先追求“思想”，追求革命的思想，追求马列主义毛泽东思想，把立足点转移到“思想”上。“思想”第一。思想这一方面解决了，那技巧问题好解决。古今中外，一切文学成功者们的实践证明了这一论断。毛主席的诗词为什么达到高峰呢？是因为毛主席是二十世纪的天才，是最高思想家，是最高辩证唯物论者。还有杜甫、海涅、普希金、高尔基、鲁迅等等古今中外的作家、诗人，他们都代表着当时历史阶段的最高、最先进的、最革命的思想体系。

十月八日

文学劳动者要作出点较大的贡献，必须在思想上狠下功夫。而某个作品所反映的思想，也必须是有不同于众，别出心裁。当然这必须首先付合马列主义毛泽东思想的观点立场。鲁迅的阿Q正传成功是因为那里有个“阿Q主义”这个反面思想。

十月九日

今晚看了大毒草影片“兵临城下”。这影片真不像样，从内容到对话，以及演员形象，都是些和谈判的“密”，都是刘少奇的反动思想的产物。

这种毒草必须彻底打倒。

十月十日

今天阿左旗大联合联络站正式成立。我相信她将会促进阿拉善草原上的革命派大联合，在贺兰山下送来毛主席革命路线的最高胜利的喜讯。

十月十一日

正规的，严格的要求自己的，革命化的生活是多么有意义，多么愉快，多么有条有理呀。相反，一天糊里糊涂地过去，那真没有意义，真不舒服。

十月十二日

总是“我怎么……”，总是私字，怎能革命呢？革命不能从“我”字出发，不能对自己有利才革命，不利就不革命，这是假革命。每件事，每个行动都要从革命的真理出发，而不能从“我”出发。革命不能考虑渺小个人的得失。

十月十三日

今天听说昨晚在我们机关院内发生了几个干部偷盗国家财产的事件。这些人太不像话。他们走后门，甚至偷窃四旧处理品，而群众排队日日夜夜还是买不上。这号人怎不知人类羞耻。

十月十四日

红卫兵司令部今天晚上主持召开“斗私批修”大会，严肃批判前天晚间出现的集体偷窃私分国库物资的事件。给这两天继续查出，这是个大案件。

我认为这确实不是个二段问题，这是个大问题，这就是资本主义复辟，何况这里参与了很多所谓的革命领导干部，所谓造反派头头，以及原3.14反革命复辟的坏头头。这事情应该严肃处理，必须严肃处理。这就是斗私的活生生的教材。

十月十五日

我的生活多么愉快，多么有意义。

当曙光万道，早晨来临时我起床在肃静的院内跑步，在大树底下做操。

当东方红，太阳升起时我手捧红通通的毛主席语录和诗词迎着红光背诵、朗诵。在朗诵着描写毛主席年青时他伟大形象的一段文章。

当收音机里播送“老三篇”时，我也拿着“老三篇”跟着同声念。

当太阳落山，夜幕拉开以后我一个人坐在一间朴素简单又整齐的宿舍房间的堆满书籍的桌子前边，挥起金笔，抒写革命的诗篇，进行文学劳动。

当上班铃声响，我和机关同志们在一起学习，开会，办公……

我的生活啊，是革命化的生活，是斗争的生活，是严格要求自己的生活，是朴素简单的生活。我爱这种生活，追求这种生活。我要每日每时都要注意自己的生活的意义和价值，注意革命化，无论任何情况下，不管是艰苦、痛苦、不管是顺利、痛快，都要掌握生活规律，尽量避免那些“波动”和“乱散”。

十月十六日

《政治是灵魂》，在人的生活中政治生活—精神生活—必须成为灵魂。革命者应争取精神生活的愉快和幸福，而不应该追求物质生活得愉快和幸福。这是政治糊涂虫。

十月十七日

我写的一张大字报引起许多革命同志的共鸣，我经历了一夜一日的艰苦奋战写出了那张大字报，驳斥那些为 10.12

偷窃国库财政案件辩护的人们。革命的真理是颠覆不破的。革命的真理辩不过，骂不倒的。

十月十八日

今天看了反动纪录影片“赫鲁晓夫访问美国”，“刘少奇访问印度尼西亚”两个姊妹篇。

赫光秃和刘白毛真不愧为是一对老修，一对叛徒，一对阿飞。他们身为社会主义国家元首，而那样去奴颜婢膝，那样去腐朽腐烂，岂能称得上马列主义者，简直是封建国王，资本主义国君总统。像这样一些家伙不把他打倒，让他随意摆拢，那本来就是资本主义复辟。

这对老修现在都已经被历史审判有罪，我们要用马列主义毛泽东思想武器把他们打入十八层地狱。

打倒苏联赫秃子！打倒中国刘白毛！

十月十九日

物资生活的困难，经济上的困难，钱的困难，对一个有志有抱负的革命者来说是看不到眼里的小事情，想不到心里的小问题。这些方面再困难也好，都会被乐观地克服，可不能影响为革命理想之努力。因为我们沿着不是为了这些无用的东西，我们不是那些看钱眼红的，只为着“钱”而活着的资产阶级。

由于亲属遭祸的困难我有必要帮助他们的生活了，这样我的生活可能要紧，但我要以上述观点来对待。

十月二十日

大联合是当前文化革命中革命派的义不容辞的义务。我认为，我们百分之九十五的革命人民是跟毛主席的，是走社会主义道路的，我们百分之九十五的革命人民是要保卫毛主席的，那么我们大目标一点，大方向一致。为什么不能联合呢，为什么非要分成势不两立的两大派，甚至互相辱骂，相互打架呢。

我们应该联合，必须联合，联合起来，众志成城团结对敌，打党内走资派，打大大小小的赫鲁晓夫。

十月二十一日

第一次通读略诵完“新华字典”。我为了全中国和全世界的人民革命服务必须要精通汉文，必须要争取能以汉文创作。汉文水平需要以高速度，高标准来提高。这样需要下功夫，要艰苦学习。

十月二十二日

每个人都要说话，但说出的话各有不同，说什么话，说哪些话，怎样说各有不同。

我最喜欢这样的人：他的话并不多，但每一句都很中肯，都从革命出发，都能启发人再往远处，大处着想。他的话只涉及革命，从不涉及私人生活问题和那些无用的、低级的东西。

我应该严格要求自己，在说话方面也体现革命者的崇高姿态。

十月二十三日

我们在任何时候，对待任何斗争和事情都必须要有自己的见解，要自己动脑子，用马列主义毛泽东思想去分析，得出结论，认为那个革命的然后坚决行动。我们决不能有任何奴隶主义，当传声筒和摇摆不定的投机者。要有见解，要干下去，错了也没关系，认识再去改正，但是千万不要真正认识以前，弄不清是非以前，去随便改变观点。

十月二十四日

我的物资生活现在和将来都必须是最简单，最朴素，既然有了条件也好还是要这样。我要有一张桌子，一张椅子就行了，我就要这样的生活。穿衣服要一般，吃得更不能太讲究，什么营养呀，什么条件反射呀都没用。身体健康主要取决于锻炼和劳动，而不是由吃的，条件反射来决定。

十月二十五日

读完了“斯大林传略”一书，很感动。斯大林是伟大的马列主义者，是伟大的无产阶级革命家，也是世界共产主义运动公认的领袖。斯大林的伟大名字和伟大功勋和天地共存，日月共升。修正主义对斯大林的侮辱糟蹋是对历史的犯罪！历史将判处他们罪该万死。苏联人民在怀念斯大林，中国人民在呼唤斯大林，世界人民在怀念斯大林。

斯大林永垂不朽！斯大林的伟大思想万岁！

斯大林永远活在我们的心里。我们将继续着斯大林的伟大事业！斯大林啊，我们永远怀念您！

十月二十六日

一个人，一个愿作革命的人，如果没有马列主义毛泽东思想的学习，研究和运用，就谈不上达到自己的目的。

十月二十七日

我们是历史唯物主义者。看待评价历史事件和历史人物时不能用历史唯心论来办事，不能隔断历史来办事。必须历史的、全面地、客观地、科学地进行分析。要按照历史的本来面目去看待，不能随心所欲地篡改历史，这种做法只是应付眼前的，徒劳的做法。历史的辩证法永远是无情的。苏修对伟大斯大林的歪曲和侮辱便是一个例子。

十月二十八日

古巴真正的马列主义者——格瓦拉前几年退出古巴政治舞台，到玻利维亚开辟新的革命阵地，上月在游击战中被反动派害死。他是伟大的战士，是马列主义毛泽东思想的真正体现者，他的一生是革命者的战斗的一生。玻利维亚革命人民一定会踏着他的血迹，向革命胜利英勇前进。

格瓦拉同志永垂不朽！

十月二十九日

格瓦拉同志所以“失败”，是因为它虽然退出了古巴修正主义政治舞台，但是后来并未和修正主义分子卡斯特罗彻底划清界限，仍按他的策划来行事，特别是把玻利维亚的游击战事业放在苏修的指挥棒下，所以犯了大错误，在战术上失败了。他本人也光荣牺牲。

但是我认为格瓦拉同志的革命大方向是正确的，特别是他提倡武装夺取政权，走武装革命的路，这一点是符合马列主义毛泽东思想的。格瓦拉同志是攻大过小的马列主义者，无产阶级革命家。格瓦拉虽然倒下了，但是他的事业并未失败，玻利维亚革命战士将要完成他的伟大的革命事业。

十月三十日

为有牺牲多壮志，敢教日月换新天。

十月三十一日

我写了一张题为“横空出世俺问你”的大字报，贴在街上，振动很大。前几天从银川来了几个人（说是宁夏大学的学生），自以为了不起，横行霸道，无理取闹，自名为“横空出世”分子，连贴大字报攻击阿左旗造反派，破坏此地革命大联合。谁人也不敢去说，好像神圣不可侵犯。我对这几个人的主观行为感到愤慨写了这张尖锐的大字报，把他们痛骂一顿、痛斥一番。

十一月一日

对待那些不得人心的害人虫，对待那些不得人心的事情，我必须要有个革命的正义感和无所畏惧的斗争精神。要学习鲁迅的精神。不管它多么气势汹汹，我都要敢于和他斗，敢于捍卫真理。

十一月二日

“真理永远存在”，（闻一多的话）马克思列宁主义毛泽东思想的真理，共产主义革命的真理，正义事业的真理，人民的真理，历史发展规律的真理，是永远存在的，颠覆不破的。因为历史的辩证法是无情的。

十一月三日

内蒙古革命委员会前天已经成立。这是毛主席思想在内蒙古草原上的伟大胜利。内蒙古各族人民从今砸烂了乌兰夫独立反动王朝，走向真正的毛泽东思想的大道和光明的未来。

十一月四日

内蒙古呀，好地方，毛泽东的太阳照耀辉煌，革命委员会如今成立，随着祖国的前进步伐……。

十一月五日

我是生活在伟大毛泽东时代的祖国和民族的优秀革命儿子，是年青的无私的文学劳动者。我的年青的文学才能属于伟

大的毛泽东时代，属于社会主义祖国和民族，属于人民，属于无产阶级，属于共产主义革命事业。而决不只属于我个人。

十一月六日

伟大的十月革命五十周年就要来到了。世界的修正主义叛徒们，工贼们，妖魔鬼怪们聚集在莫斯科，也叫嚷什么“庆祝”“庆祝”。但是他们这一群早已是叛变无耻的叛徒根本没有资格庆祝伟大的十月革命。我们中国是当年的苏维埃，中国共产主义是当年的布尔什维克，毛主席是当年的列宁。我们今天在自己的国土上真正去庆祝十月革命节日。

十一月七日

今天是伟大十月社会主义革命五十周年纪念日。今天我做为一个伟大社会主义帝国的普通的革命青年，以无比崇敬的心情怀念着十月革命的伟大创造者列宁和他的继承人斯大林，怀念着亿万万个生活在修正主义黑暗统治下的伟大的苏联人民——血肉相连的阶级兄弟。

今天在世界第一个社会主义国家的苏联，乌云滚滚，恶风阵阵，那当年红光闪闪的克里姆林宫的五星灯光已经熄灭了，那当年召唤全世界革命人民起来斗争的莫斯科的钟声停止响了……而代替这一切而来的都是一群修正主义，工贼，叛徒们的喝酒干杯的呐喊声和跳摇摆舞的丑姿态……。啊！这是多么使人心痛的悲剧啊！

但是，我高兴地眼望着自己的周围。二十世纪六十年代的十月革命就在我的祖国的大地上风起云涌地进行着——无产阶级文化革命正在节节胜利。当年的列宁还在指挥我们战斗——毛泽东，他意气风发，斗志昂扬，神采奕奕地向我们招手致意。为我们指引方向。对了，苏联所发生的事情我们只能作为它是严峻的历史教训，而用不着悲观；因为苏联变了颜色，但中国更加鲜红了。人类共产主义明天的希望就在这里——在我的祖国。同时苏联今后的乌云和恶风也是暂时的，它总有一天会重见阳光……。伟大的十月革命万岁！

十一月八日

广大的苏联人民，广大的苏联共产党绝大多数是好的，是要革命的。他们总有一天会起来造苏修的反，重建无产阶级专政。伟大的毛泽东思想，中国文化革命的榜样则是他们实现这种第二次革命的最有力的武器。

十一月九日

今天到头道沙，栽树，参加愉快地劳动。

十一月十日

理解和评价一切革命活动，一切革命措施都必须从大处远处着想，只要它是对革命有利，对人民事业有利，而且是必需之需要，既然对我们个人的利益看似抵触也罢，我们必须愉快地、热情地去迎接。我们不能以对“我”有利否来选定反对或拥护的态度。

十一月十一日

我想，文化革命就进行这么一次根本不行，正如毛主席所说得那样要进行第二次、第三次、第四次……甚至多次，才能防止资本主义复辟，修正主义泛滥。不在看吗，咱们这里有些当权派——这里称得上较好的，通过了一年多的激烈“触及”，现在还是老爷作风，群众说一两句批评话就不行，总以革命干部自居，等待结合。这些人在这次革命以后如果不活学活用主席思想，不好好改造自己，那将来的某一天他还会要走资本主义道路，那时革命人民不得不起来造他的反。所以我们必须做好这种准备，要随时准备同一切修、资去作战。

十一月十二日

毛主席一马当先，杀出一条改造世界，实现共产主义的路来，我们万马奔腾紧跟在主席后边，冲奔过去。毛主席怎样闯的，我们就怎么冲。

十一月十三日

学习，读书这是非常重要的，一个革命者必须是好学。要用马列主义毛泽东思想武装起自己的头脑，要用人类创造的丰富知识来武装自己才能成为共产主义革命者。但学习，读书必须是在斗争中学，斗争中用，要从天下大事学，要从阶级斗争、生活斗争学……。

十一月十四日

我的生活多么有规律，多么有意义。我天天能坚持锻炼，坚持背主席语录和诗词，坚持学习老三篇，坚持学习文学作品……现在只差一个重要的——做好事，参加革命劳动。以后一定要坚持这一点。

十一月十五日

我每时每刻应该以一个革命青年，革命文学青年的高姿态出现。要以革命化的高标准严格要求自己。

十一月十六日

今天又到沙漠里栽树。我应该养成一个劳动不怕，不累的习惯。要以革命化的高标准严格要求自己。

十一月十七日

刘少奇是中国的赫鲁晓夫，是今日社会主义中国之最大的走资派，最大的野心家，最大的祸国殃民的野心家。他一确定为第二号人物，在自己的周围便聚集了一伙谋求升官发财的官迷。他根本不是个马列主义者，他是个修正主义者。

十一月十八日

我对伟大毛主席的态度是：热，热，热。我对中国赫鲁晓夫——刘少奇的态度是：冷，冷，冷。

十一月十九日

当年毛主席在湖南创始“马列主义研究小组”，学习研究马列主义，从事革命活动。那么，今天我们也能不能这样自觉地组织起来，学习研究毛泽东思想，更好地在无产阶级专政条件下继续革命呢。我认为可以这样做，也有必要这样组织起来。我现在有各种设想：将来和一些志同道合的，真正终于毛主席的同志们一起组织一个“毛泽东文艺思想研究小组”。

十一月二十日

二十世纪的五十年代。在世界新一个社会主义国家苏联，伟大马列主义领袖斯大林逝世了。不久赫修上台了。修正主义的苏共二是大，二十二大召开了。赫鲁晓夫修了，第一个社会主义的苏联变色了。泽登巴尔修了，卡达尔修了，朝鲜修了，古巴修了。一连串沉痛地、遗憾的日子，一个连着一个出现在世界共产党和革命人民面前。世界社会主义的上空乌云滚滚，阴风阵阵……。社会主义阵营向何处去？世界共运向何处去？共产党人，革命人民仰望着马克思的再现，等待着今日的列宁的声音啊！

正在这一关键时刻一个高大伟岸的身影在天安门上站起来了。他顶天立地地站起来，犹如当年的马克思在巴黎公社的“擂台”上，犹如当年的列宁在十月革命的战场上！

他率领着六亿神州，毫不动摇地前进在社会主义大道上，进行着文化大革命，他召唤着几十亿世界革命人民，无所畏惧地奔跑在武装革命的道路上，向美帝、向苏修，向反动派宣战着……

啊，这高大伟岸的身影是何人？是我们的毛泽东！是我们心中的红太阳毛泽东！

看吧，四海之水随着他的手势翻腾着，五洲之地跟着他的声音震荡着。帝、修、反的乌云由他驱散，东方的红日由他升起。世界共运有希望了，人类解放有前途了，地球在呼唤，宇宙在呼唤：

“毛泽东！”“毛泽东！”“毛泽东！”……

十一月二十一日

我用革命文学青年的响亮的歌声歌唱着毛泽东：“敬爱的毛主席，我们心中的红太阳。我们有知心的话要对您讲，我们有多少热情的歌要给您唱，哎，千万颗红心在激烈地跳动，千万张笑脸迎着红太阳，我们衷心祝福您老人家，万寿无疆！”

十一月二十二日

我为毛泽东而生活，为毛泽东而歌唱，为毛泽东而战斗，为毛泽东而劳动，为毛泽东而死去！

十一月二十三日

我现在设想的“毛泽东文艺思想学习研究小组”是以前所设想的“文艺社”的先驱组织，是为“文艺社”的成立打基础的。

十一月二十四日

“北国风光，千里冰封，万里雪飘，望长城内外，惟余莽莽，大河上下顿失滔滔。山舞银蛇，原驰蜡象，欲与天公试比高……”

今天的雪地正是主席词中所指示的那种壮丽景色啊！

十一月二十五日

雪花飘飘的早晨，我一个人在院子地，雪地上跑步着，练操着，我是坚持做锻炼。我应该这样风里雪里坚持锻炼。

十一月二十六日

今天农牧局定我为赴大寨参观人员的一个。我听了以后高兴极了，恨不得马上展翅飞向大寨。

十一月二十七日

去大寨参观这是我一生中难得的好机会，这不是游山玩水，不是探亲望家，它虽然是看一看梯田，听一听介绍，但是它是在中国，在全世界最闪烁着毛泽东伟大农村战略思想光辉的地方。是中国五亿农民的榜样。我将要亲眼看到这个地方，怎么不高兴呢。

十一月二十六日

参观大寨高兴了两天，今天突然盟里来通知因下雪过大，暂停参观。为了促生产，为了革命之需要我又接受任务，下乡抗灾。

十一月二十九日

我认为在今后的几十年里，我们这一代在国内的最重要的任务是在无产阶级专政条件下继续进行革命，保证中国不变鲜红的颜色，与修正主义的出现，资本主义的复辟进行斗争。在理论上、思想上为共产主义过渡准备充分的条件。这是政治上的任务。经济上的任务则要进行社会主义建设，改变一穷二白的面貌。

十一月三十日

既然在无产阶级专政条件下要革命，那么过去的革命和这次文化革命中的一些斗争形式都可以结合今日之实际情况经常不断地运用之。如：文斗、大字报、组织、示威游行，办报刊……

十二月一日

毛主席在年青时候起所运用过的那些革命斗争形式在今日的无产阶级条件下的革命中，都是以结合实际情况传效之，学习之。可以有今日的“新民学会”，今日的“农民运动讲习所”，今日的“马列主义研究小组”，今日的“湘江评论”，只有这样才能进行好的革命，防止修正主义，才能活学活用毛泽东的思想，完成毛主席交给我们的任务。

十二月二日

“斗私，批修”这是我们毛主席的最新指示，是文化革命的纲领，是文化革命内容的最高概括。它也是在无产阶级专政条件下永远，继续革命的内容所在。我将铭刻在心上，永远斗私，实现共产主义化，永远同修正主义斗争。

十二月三日

现在全国各地举办的毛泽东思想学习班是斗私批修的战场，也是实现革命大联合，保证文化革命进入正规化，团结百分之九十五以上革命群众共同对敌的最好形式。我要积极参加“学习班”，真正斗私批修。

十二月四日

革命就当个真革命，绝不能当口头革命，假革命。现在我们机关里有的干部上月才参加10：12私分国家财产案件，走后门拿去的赃物至今未交，还在斗私批修“学习班”上介绍经验哩！哈哈，真是天大的笑话。世上那里岂有此理，岂有这样的逻辑。我认为像这样的人啊，不是私字“斗”少了，而是“斗”多了。这是卖狗皮膏药。

十二月五日

现在这里有的人轻蔑我们真正造反派组织——“东方红联络总部”是“极左”，“分裂”，还威胁我们说什么“谁走5.16的路就坚决镇压谁”。哈哈，真徒劳。为革命我们含笑敢当“极左”，“分裂者”，为革命我们含笑敢当“五一六”，

革命不怕死，怕死不革命，只要中国不变色，死了也甘心！我们不做半截子革命者，不做原则的交易者。我们要做决心把文化革命进行到底的彻底革命派！

十二月六日

今日从巴音浩特出发，赴红吉尔玉林公社参加抗灾，下乡途中来到庆格勒公社。雪啊，雪，百里冰雪，我们乘坐的小汽车在雪里寸步难行，最后只好退走了，我们几个人在雪里步行几十里。吃够冷，够吃劲儿啊！其乐无穷，其乐无穷！

十二月七日

从庆格勒公社出发继续奔向红社。在厚雪的远山里旅行这有意思。有时连骆驼带人跌进雪坑里。山啊，雪山！我想起了毛主席的著名词作“雪”。这可是那种景色呀！“北国风光，千里冰封，万里雪飘……”

十二月八日

下午来到目的地——红古尔玉林公社。我们已经开始了牧区艰苦生活。但对我来说，这是早已习惯的事了。

十二月九日

今天是我最有意义，最愉快的幸运的一天。今天我第一次懂得了科学社会主义的创始人——伟大世界革命导师马克思的生平传略，读到了“马克思”，“回忆马克思”两本书，我像“牛走进了草圈一样”地把两本书一口气地读完了。

我们是努力做一个马克思主义者的人，但至今对马克思是个什么样的人这一点一窍不通。有点可笑矣！我多少年，多少天盼望了解马、列、斯——我们的导师们究竟些什么样的人物。今天终于开窍了，我找到了这四位导师的传略。

马克思的一生是多么充满斗争的奋战的一生，多么气壮山河的贫穷而革命的一生！他人类历史上史无前例的最伟大的人物。我们应学马克思的学说，掌握马克思主义的同时，也应学马克思的伟大人格，向他的天奋学习。

伟大的马克思的“声名和劳作是永垂不朽的！”

十二月十一日

马克思是组织领导过“第一国际”，恩格斯是组织领导过“第二国际”，列宁斯大林是组织领导过“第三国际”。现在苏修为代表的国际一小撮现代修正主义者，这些不成为人类的狗屎堆的工贼们，破坏了国际共运，背叛了马恩列斯的事业。

所以我认为今日的马恩列斯——我们的毛主席应该组织建立“第四国际”。这个历史的使命，责任永远的落在毛主席的身上了。——这是我一个普通的年青的毛泽东主义者的发自内心的设想和建议。

十二月十二日

这几天我沉浸在读书——世界上最珍贵的书——幸福的海洋中。白天书不离手的读者，抄着，晚间也读着，写着，简直忘记了周围的一切。“忘我”的读啊，读。读着伟大导师们的传略……。

十二月十三日

从红古尔玉林公社来到该社德日吐大队。

十二月十四日

今天转几个蓄群的途中，我和同学——斯日古楞两个人在严峻的，随时都有掉进雪林之危险的雪山里行进。这个旅程是很有风趣地，有时连人带骆驼走进三尺深的厚雪中，有时单人跌在雪里。但是我胆大的同学斯日古楞无所畏惧的向前冲，我也就跟着而来。我们终于爬过了山崖和雪坑，我们胜利了。真是其乐无穷。

生活的道路，革命的道路也不就是这样的吗？有时走弯路，有时会跌倒，但是你如果能无所畏惧的向前冲，倒了再起，弯了再进入正规，弯弯曲曲跌到起来，勇往直前，那么你就会到达目的地，到达理想之地。不然你会成为逃跑者，退却者，失败者。

十二月十五日

英雄的旅行仍在继续。今天我们更是干脆放弃那些平坦安全的绕路，而翻雪山越雪岭，开雪沟，跳雪坑，步行走了平时也难走的路，又一次胜利的到达目的地。

路啊，路，山间的路，革命的路，从来没有现成的平坦的路。路是人走出来的，或要走来。今代我们——特别是我们

革命的年青一代所走着的是我们前人从来没有走过的路，攀登着的是前人从来没有攀登过的高峰。所以我们必须像今天走过来的路那样去踏出自己的路。在阶级斗争的路上，在生产斗争的路上，在科学的路上，在诗歌的路上……都应该如此。因为我们是空前伟大的毛泽东时代的无产阶级新的一代啊！“跟着毛主席，我们绕过暗礁，跟着毛主席我们闯过多少危险，跟着毛主席我们刀山火海也敢上……”

十二月十六日

我正在读“恩格斯的传略”。我首先对恩格斯那仅次于马克思的伟大革命天才，那英雄的奋斗精神，特别是他对于马克思的伟大友谊的典范和为马克思的崇高的，无私的自我牺牲精神感到万分激动。恩格斯——我们伟大导师的这一切崇高精神和高贵风格是我们应该效仿学习的。

十二月十七日

这几年我到牧民家里根本没有空去帮助做那些零散的家务劳动。按道理是应该做的，但眼前我正在如饥似渴的读着记着世界上最伟大的几个人的伟大生命世纪，所以，时间比任何时候都需要的像跟生命一样重要啊！我几乎怜惜每一分钟的时光。凡是能利用的几分钟时间我都利用在读这几本书上去了。

十二月十八日

在这德日图大队上，参加该对革命造反派大联合会议。毛主席的“无产阶级革命派联合起来”的伟大口号响彻祖国的每一块儿天地。

十二月十九日

这几天我身体不好，平均过一分钟咳嗽一次，吃药几天也不见效。甚至抄马思列斯传略写字都感到困难，我很痛苦。但是我们坚持工作着，学习着……不分白天黑夜的抄着……

也许，今后我的健康会遭到破坏，病魔来侵袭我。但是我下定决心顶住它。我不会被病魔吓倒，不会为生病而悲观。我会坚持下去，会带着病魔从事自己的艰苦事业。

这两天愈是咳嗽，我欲要去寒冷地早晨做深呼吸。我今后也同样，越是有病，我就下横心坚持锻炼身体。

十二月二十日

恩格斯曾经起头写过“自然科学的辩证法”一文。恩格斯这个伟大发现是适应于一切科学种类。我想文学艺术也是辩证法的，我们应该这一方面具体地学习研究。

十二月二十一日

今天我读完并摘抄完“列宁略传”一书。列宁那为被压迫阶级的解放不怕千难万险，出生入死闹革命的精神。他那对马克思主义的忠于性和发展——创造性，他那个强调枪杆子，强调武装斗争的学识，永远值得我们学习，效仿。列宁是二十世纪初的天才，是世界第一个社会主义国家——苏维埃政府的亲手缔造者。

今天，苏联修正主义领导背叛了伟大列宁的事业——当然他们在口头上也大讲特讲列宁，自称为“列宁的党”，但他们是彻头彻尾的考茨基，普烈汉诺夫，托洛茨基的孝子贤孙，是列宁早就痛斥过的“老修”。伟大列宁如果今天还在活着的话，他一定会万分激怒，严厉痛斥这些叛徒。

伟大列宁的名声和事业永垂不朽！列宁的旗帜一定会在苏联重新升起，在全世界高高飘扬。

十二月二十二日

今天从畜牧群上来到红古尔玉林公社上。

十二月二十三日

参加了挖雪修公路的劳动。我很高兴，能把自己的劳动的汗水献给祖国的这一条公路的建设中。

十二月二十四日

文化革命的急风暴雨洗涤着祖国的北部边疆，使数千个普普通通的牧民也掌握到伟大毛泽东思想。这是一场多么伟大的革命啊！这是一个多么伟大的时代啊。

十二月二十五日

红古尔玉林公社五大革命群众组织今天联合起来了，我们参加了联合仪式，并致赞辞。

十二月二十六日

这两天参加该社辩论会。我感到讨厌和不友好是这里有那么几个渺小人，他们自以为了不起，不把几十名贫苦社员放在眼里，把自己当成“诸葛亮”，把群众当成阿斗，对群众的话半句也不听，对群众的看法办步也不让。可是他们自己也没什么知识也没有说三句两句都是徒劳的，无理的，无根据的，他离一个毛泽东思想者，离一个人民的干部还差一万八千里。他们是愚蠢的，无知的几个“小虫”。而这些贫苦群众是山鹰，是真正的英雄。

十二月二十七日

(从红古尔玉林公社，骑驼行程几十里来到北部工委)。

十二月二十八日

我觉得像今天给我们几十个旅客开车的司机这行人，还有理发员，医生、兽医、供销员、邮递员……这些从事服务工作的人，他们是第一个为人民服务的人，他们是第一个人民的服务员，他们那“普通”的岗位“一般”的工作使他们用自己的辛苦换来别人的幸福，从而高贵起来了。我第一个爱这些劳动群众。(今天乘班车从西尼乌素来到右旗巴音诺尔公)

十二月二十九日

汽车坏了，我们是走不成了，就蹲在这里。多么急死人，急死人啊，但急有什么用，气更能解决什么问题。这种客观就是决定了你。而你无法决定它。所以我只好安下心来住，读着我的书。无论在哪里，还不是一样吗？只问你是怎么渡过的，闲着渡过了，还是有意义地渡过了这一天，两天……

十二月三十日

乘了另一个卡车从巴音诺尔公来到巴音浩特。一路上坐在上边，顶风飞跑，真够冷，但也不感觉太冷。

事情是这样。平常在温暖的房子里，还觉得不暖和，可是一到外面走还觉得那么冷。人的一切啊，总是被客观决定着，适应着客观，这就“自然辩证法”人的辩证法。

十二月三十一日

光辉的一九六七年过去了。

回顾这已过去的一年，是多么惊人动魄，多么富有战斗气氛，多么有意义呀！这一年是史无前例地伟大无产阶级文化大革命的最激烈，最有决战性的一年。这一年也是我二十三年中最有意义的一年，可以说他是我一生的转折点。在这一年里我们闯过多少风险，走过多少里程，花过多少心血。这一年里：

我是愤慨的向刘邓反动路线开火，从反动路线中冲杀出来捍卫过毛主席的革命路线。我也是在二月黑风中迷失方向在三月逆流中看风使舵，从原造反派组织退出来参加保守派受蒙蔽，但通过几个月的实践认识真正回到了毛主席的革命路线。重新战斗在革命造反派的红旗下。这一年里更为重要的是我切实实地开始学习和研究马列主义毛泽东思想，开始掌握辩证唯物论，历史唯物论，从而在我的理想上，志气上，性格上都有了极大的新变化，这是我一生的好转折，而这个变化主要是来自于参加伟大的文化大革命实践中啊！

这一年里我虽然未写一首诗，但在我一生的文学道路上也有了转折点。这个变化也是来自于听到文化大革命的警钟的声音啊！我从今后起确实找到了马列思想和毛泽东文艺思想的道路，我将会在自己的革命文学道路上踏出一条光辉的历程！……

当然这一年里我也走过一些弯路，也摔过一些跤，这将是今后对我的教训。

时光在飞梭，岁月在闪过。六七年再不能复返了。但是我们的步伐，我们队伍，我们的事业也在跃进，也在飞跃。我们乘着历史前进的火车头——革命的列车，举着毛泽东思想的红旗，前进在时间的前头！我们是毛泽东的战斗行列！我们骄傲，我们自豪。

(一九六七年日记结束)